2020年度シラバス

| 科目名:子ども家庭支援論 | 担当者:太田 早津美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>【担当者の実務経験】保育士・保育園長　　この授業では、現場経験を基にした具体的な事例検討で、子育て家庭の支援の在り方を学び理解を深め実践力を高めていく。子育て家庭を取り巻く様々な問題や課題を抱えている子育て家庭の現状把握と支援策を学びながら、保育所や地域の子育て家庭のニーズや社会的課題を踏まえた支援ができるよう理解を深めていく。 |
| 授業の到達目標<br>子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子ども家庭支援の意義と保育者の役割について理解する。子育て家庭の支援体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>保育に関連する専門職として必要なの知識について自らの学びを確認しながら、授業内容を幅広い知識をもって学ぶようにする。予習復習をして、教科書に記された大切な用語等を理解し覚えておく事。居住地の子育て家庭の状況や支援対策を知っておくこと。子育て支援センター等に出向き、親子のかかわり方を観察したり、保護者の子育て観や子育ての悩みを聞き、子育て支援についての学びを深めること。 |
| 評価方法<br>筆記試験（８０%）、授業への参加態度・レポート・提出物（２０%） |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| シードブック　子ども家庭支援論　村松和子編著　建帛社 | ＜29年告示＞保育所保育指針、　幼稚園教育要領、　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>新聞や報道による子育て家庭に関連した記事に関心を持ち、子育て家庭の現状をより理解するよう努めましょう。自身のワークライフバランスを考えた時にどのような支援が必要か考えてみましょう。　研究室740２ |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業ガイダンス　・　子ども家庭支援とは |
| 02 | 子ども家庭支援の意義と役割 |
| 03 | 子育て家庭を取り巻く地域社会の変容と子ども家庭支援の必要性 |
| 04 | 保育士等が行う子ども家庭支援 |
| 05 | 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 |
| 06 | 保育所・幼稚園・幼保連携型認定子ども園における子育て家庭への支援 |
| 07 | 子育て家庭の支援体制 |
| 08 | 子育て支援事業 |
| 09 | 多様な子育て家庭の支援と関係機関との連携 |
| 10 | 地域の子育て家庭への支援状況 |
| 11 | 要保護児童及びその家族に対する支援 |
| 12 | 保育現場での子ども家庭支援の現状と課題 |
| 13 | 子ども家庭支援を行う保育士の基本姿勢 |
| 14 | 子ども家庭支援の課題とまとめ　①　事例研究と支援方法の考え方 |
| 15 | 子ども家庭支援の課題とまとめ　②　今後の課題と保育者としての支援の在り方 |
| 16 | 定期試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:子ども家庭支援の心理学 | 担当者:小嶋 玲子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
2017年告示の保育所保育指針では、「保育所の機能を生かした子育て支援」が強調されています。保育士として子どもや子どもが育つ家庭への支援ができる力をつけるために、できるだけ具体的な例をあげながら学んでいきます。
さまざまな家庭があること、また、支援方法にもいろいろな方法があることを理解するためにも、学生同士の討論の時間を多く持ちます。

授業の到達目標
１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。
２．家族・家庭の意義や機能の理解、発達的視点からの親子関係・家族関係等の理解、子どもの精神保健と課題の理解をしたうえで、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
３．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
予習として授業前にテキストを読んでくること。授業後にノートやテキストを読み直し、自分で復習をすること

評価方法
授業での課題50%　定期試験50%　ただしそれぞれにおいて6割以上の成果を求めます。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 青木紀久代編著　子ども家庭支援の心理学　みらい　2019年 | 保育所保育指針解説 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー・連絡先は別途掲示する。社会の動きやニュース、特に子どもや子育てに関する話題についてする努力をしてください。

| | |
|---|---|
| 01 | 生涯発達とは何か |
| 02 | 乳幼児期の発達 |
| 03 | 児童期の発達<br>児童期の発達 |
| 04 | 青年期の発達 |
| 05 | 成人期・老人期の発達 |
| 06 | 老仁期の発達<br>子育てを取り巻く社会状況 |
| 07 | 保育における子育て支援 |
| 08 | 家族・家庭の意義と機能 |
| 09 | 親子・家族関係の理解 |
| 10 | ライフコースと仕事、子育て |
| 11 | 子育てを取り巻く社会状況 |
| 12 | 多様な家庭とその支援 |
| 13 | 子どもや保護者の精神疾患への理解 |
| 14 | 特別な配慮を要する家庭への支援 |
| 15 | 発達支援の必要な家庭への支援 |
| 16 | まとめ・定期試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:特別支援基礎論 | 担当者:小柳津 和博 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童が生きる力を身に付けていくことができるような支援方法について学ぶ。幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・支援方法について学ぶ。

授業の到達目標
①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。
②発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。
③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける。
④母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教科書を読み、授業内容について予習をする。
障害のある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
試験（80%）、授業への参加態度（20%）、により総合的に評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版） | 幼稚園教育要領および解説、保育所保育指針および解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教師を目指す学生は、特別の支援を必要とする子どもの基礎的な理解を深め、インクルーシブ教育システム構築を担うための理解を深めてほしい。
連絡先：oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション、障害とは、特別支援教育（インクルーシブ教育システム）の理念、仕組み、課題 |
| 02 | 発達障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法） |
| 03 | 知的障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法） |
| 04 | 視覚障害児、聴覚障害児の理解（障害の原因・特性、支援の方法） |
| 05 | 肢体不自由児、病弱児の理解（障害の原因・特性、支援の方法） |
| 06 | 特別な教育ニーズにある子どもの理解（外国籍、貧困、性別違和、被虐待） |
| 07 | 特別支援教育における教育課程（自立活動、通級指導教室） |
| 08 | 本講義のまとめ・試験 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（健康） | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心とからだを育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。

授業の到達目標
（１）幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。
（２）幼児期のからだの諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。
（３）安全な生活と怪我や病気の予防を理解し、適切な指導方法を身に付ける。
（４）幼児期の運動発達の特徴と意義を理解し、適切な指導方法を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修としてシラバスの内容に関係する健康や運動の情報について予習しておくと良いです。事後学修として、他のグループが行った模擬保育についてのコメントをICTを活用した方法で記します。

評価方法
①授業への取り組みに対する意欲や態度（30%)、②指導計画の立案、模擬保育の実践（30%)、③小テストを含む講義内容に関する筆記試験（40%)□

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 指定なし | 授業の中で紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで

| | |
|---|---|
| 01 | 保育における「健康」とは<br>幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容の理解 |
| 02 | 基本的生活習慣の形成を支える援助：食事、排せつ、睡眠、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助 |
| 03 | 健康管理と安全能力を育む援助 |
| 04 | 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案1)ー健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した指導 |
| 05 | 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究1）ー健康指導、安全指導の実際 |
| 06 | 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育1)ー幼児の動機付けや意欲などを配慮した健康指導、安全指導の在り方 |
| 07 | 健康な心と体を育む保育の評価と改善1（模擬保育の振り返り） |
| 08 | 多様な動きの経験を促す援助：遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助 |
| 09 | 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 |
| 10 | 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案2)ー運動遊びについて |
| 11 | 健康な心と体を育む保育の構想（教材研究2）ー運動遊び指導の実際 |
| 12 | 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育2)ー運動遊び指導の実際 |
| 13 | 健康な心と体を育む保育の評価と改善2（模擬保育の振り返り） |
| 14 | 幼児期に育まれる健康な心とからだと小学校とのつながり「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 |
| 15 | 幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健康な心と体を育む活動 |
| 16 | まとめと試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（表現） | 担当者:田端 智美・麓 洋介 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
幼稚園教育要領等の領域「表現」を理解するとともに、主に幼稚園教諭における指導者の立場として音楽・造形等に関する知識を得る。子どもの表現に関する理論を学ぶ。また子どもと豊かに関わり育ちを支えるための表現力を磨き他者と協力して創意工夫することを学ぶ。

授業の到達目標
自分が表現するだけでなく、子どもに対してどのように指導を行えばよいのかを授業全体を通して考え、模擬授業ができるまでの技術を身につける。また保育における豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：表現における各年齢の発達について、今までの実習の子どもの姿を鑑み、ノート等にまとめることを勧める。
事後学修：各回の授業において、情報機器を用いてポートフォリオにまとめる

評価方法
レポートおよび課題40%･試験40%・授業態度20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説<br>保育所保育指針解説書 | 『楽しさはじける表現遊び』 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学生へのアドバイス：子どもの表現について自ら楽しんで授業に積極的に参加してください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・授業紹介・授業の受け方・ポートフォリオの作り方説明　表現とは？ |
| 02 | 子どもの音楽・造形等表現について1(幼稚園教育要領等の目標と内容) |
| 03 | 子どもの造形等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:田端） |
| 04 | 子どもの造形等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：田端） |
| 05 | 子どもの造形等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：田端） |
| 06 | 子どもの音楽等表現について1（0－3歳児の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当:：麓） |
| 07 | 子どもの音楽等表現について2（4－5歳の表現について映像等を用いて育ちを考える）（担当：麓） |
| 08 | 子どもの音楽等表現について3（幼稚園教育の評価・小学校の教科とのつながり）（担当：麓） |
| 09 | 造形等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：田端） |
| 10 | 造形等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：田端） |
| 11 | 音楽等の指導法１（環境の構成や言葉がけ）（担当：麓） |
| 12 | 音楽等の指導法２（幼児の表現に至るプロセス）（担当：麓） |
| 13 | 模擬授業1（指導案作成） |
| 14 | 模擬授業2（模擬保育　保育者と子どもの立場でロールプレーイング） |
| 15 | 模擬保育3（模擬保育のまとめ・ＩＣＴを用いて発表・振り返り） |
| 16 | 定期試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児と健康 | 担当者:寺田 恭子・木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることにっいて理解する。 |
| 授業の到達目標<br>(1)幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。<br>(2)幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。<br>(3)安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。<br>(4)幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。 |
| 評価方法<br>授業への取り組み・討論への貢献度（40%)、発表・レポート（30%)、講議内容に関する筆記試験（30%) |

| 教科書<br>指定なし | 参考図書<br>幼椎園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで |

| | |
|---|---|
| 01 | 乳幼児期の健康課題<br>乳幼児の身体の発達的特徴<br>乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の形成<br>幼児の安全教育と危険<br>幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防<br>乳幼児期の運動発達の特徴<br>日常生活における運動<br>遊びとしての運動<br>乳幼児期の健康課題 |
| 02 | 乳幼児の身体の発達的特徴 |
| 03 | 乳幼児期の生活習慣（着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄）の形成 |
| 04 | 幼児の安全教育と危険 |
| 05 | 幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置・病気の予防 |
| 06 | 乳幼児期の運動発達の特徴 |
| 07 | 日常生活における運動 |
| 08 | 遊びとしての運動 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児と人間関係 | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>乳幼児期の人間関係の様相について身近大人との関係から、他児、教師、集団という観点から解説する |
| 授業の到達目標<br>幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解している。乳幼児期の他者との関係性や、そこか体得する事項について理解する。また幼児の人間関係を指導するための基礎理論を理解する |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>レポート提出の際には、授業で紹介する参考文献などを読んで、考察する |
| 評価方法<br>授業への取り組み30%　レポート30%　確認テスト40% |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領（解説書） | |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>日頃から、子どもの様子を観察する。ボランティアや実習で子どもと積極的に関り、子どもの気持ちを理解しようとする姿勢を持って観察する。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 現代社会の幼児の人間関係 |
| 02 | 乳児期の人間関係 |
| 03 | 幼児期の人間関係 |
| 04 | 乳幼児期の自立心の育ち |
| 05 | 幼児期の協同性の育ち |
| 06 | 幼児期の規範意識や道徳性の育ち |
| 07 | 乳幼児期の人間関係の広がり |
| 08 | 幼児期の人間関係のまとめ |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児と表現 | 担当者:田端 智美・石山 英明 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>身体・造形・音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶ。自らも表現する事によって、幼児の表現を支えるための感性の素地を身につける。また協働して表現することにより他者の表現を受け止め共感する力を身につける。これらのことを通し、幼児の表現活動に展開する力を身につける。 |
| 授業の到達目標<br><br>幼児の表現する姿や、その発達を理解する。<br>表現遊びや環境構成などの知識･技能、表現力を身につける。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>準備学修：授業で使用する素材等を準備し、特性を調べる。<br>事後学修：授業のドキュメンテーションを作成し、実際の保育に役立つ様にする。 |
| 評価方法<br><br>レポート及び課題・表現活動40%　ポートフォリオ40%　授業態度20% |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領<br>保育所保育指針幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 | 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領<br>保育所保育指針<br>授業内で指示 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>日頃から身体・造形・音楽表現を自ら楽しんでください。<br>田端：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp<br>石山：isiyama@ohkagakuen-u.ac.jp |

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・幼児の表現の特性（具体的事例を通して）（石山・田端） |
| 02 | 第２回：身近な素材を用いた表現活動１（絵本を製作する事を通して自然を伝える）（田端） |
| 03 | 第３回：身近な素材を使った表現活動２（絵本を製作する事を通して文化を伝える）（田端） |
| 04 | 第４回：身近な素材を使った表現活動３（壁面を製作する事を通して季節を伝える）（田端） |
| 05 | 第５回：身近な素材を使った表現活動４（手作り楽器をつくって合奏を楽しむ）（石山） |
| 06 | 第６回：身近にある「音」を探す（生活を取り巻く音を採取し鑑賞を楽しむ）（石山） |
| 07 | 第７回：音と身体表現（音や音楽に合わせた身体表現を楽しむ）（石山） |
| 08 | 第８回：まとめと振り返り　ICTを用いたポートフォリオの作成（石山・田端） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:子どもの保健 | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>子どもの保健では、子どもの健やかな成長や発達、病気の特徴や予防法などを学びます。この講義では子ども達の健全な成長を支援するため、子どもの保健の意義を理解し、発育（月齢や年齢）にともない変化する身体的な特徴、生理機能、運動機能や精神機能（社会性）の発達、子どもの疾病とその予防について学びます。 |
| 授業の到達目標<br>1.子どもの保健の意義を説明できる。 2.子どもの身体発育の特徴について説明できる。 3.子どもの「生理機能」「運動機能」の発達について説明できる。 4.子どもの「認知機能」「人格形成（社会性の獲得）」について説明できる。 5.子どもの栄養：乳児期～幼児期の栄養の特性と注意点が列挙できる。 6.子どもの疾病とその防止について説明できる。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。 |
| 評価方法<br>授業への取組40%、小テストを含む講義内容に関する筆記試験60% |

| 教科書<br>指定なし | 参考図書<br>幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで<br>Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンがあると資料の閲覧や入力作業が容易です。 |

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンスおよび子どもの保健の現状、保健水準 |
| 02 | 行政が実施している母子保健活動 |
| 03 | 虐待の防止と支援 |
| 04 | 発育と発達の評価　成長曲線、統計用語の理解 |
| 05 | 生理機能の発達① 呼吸と循環 |
| 06 | 生理機能の発達② 体温調節・感覚機能・睡眠 |
| 07 | 生理機能の発達③ 消化・吸収・排泄 |
| 08 | 運動機能の発達、スキャモンの臓器別発育曲線 |
| 09 | 子どもの健康状態の観察、健康診断 |
| 10 | 子どもの身体発育の評価 |
| 11 | 精神機能の発達、認知機能 |
| 12 | 感染症の種類と予防 |
| 13 | 感染症対策 |
| 14 | アレルギー疾患 |
| 15 | 子どもに多い疾患 |
| 16 | まとめと試験 |

# 2020年度シラバス

| 科目名:子どもの健康と安全 | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
子どもの健康及び安全は、子どもの生活の基本である。この授業では、子どもの健康管理や安全の確保について、関連するガイドラインなどを参照しながら学習を進めていく。安全の確保の一環として防災についても学習する。

授業の到達目標
1.保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
2.関連するガイドライン等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
3.子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
4.子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
子どもの保健で覚えるべき内容が多く、その知識を確実なものとするため、授業外での復習を必ず行って下さい。子どもを取り巻く社会状況に関する情報には常に関心を持って下さい。

評価方法
授業への取り組み（30%)、小テスト（30%)、講義内容に関する筆記試験（40%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 指定なし | 幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡は t-kimura@ohkagakuen-u.ac.jp まで
Moodleを利用しますので、授業時にノートパソコンがあると資料の閲覧や入力作業が容易です。

| | |
|---|---|
| 01 | 子どもの健康と安全とは、オリエンテーション |
| 02 | 子どもの保健や安全管理に関する各種ガイドライン |
| 03 | 保育における健康管理 |
| 04 | 保育における安全管理 |
| 05 | 感染症の集団発生の予防 |
| 06 | 個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等） |
| 07 | 防災訓練 |
| 08 | 保育における保健活動の計画及び評価 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

# 2020年度シラバス

| 科目名:海外語学研修 | 担当者:髙橋 一郎・内田 政一・加藤 あや美・小野 克志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 5 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
国際教養こども学科では、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指すオーストラリアへの11か月留学である海外保育ライセンス・プログラムを必修として位置付けている。本科目は、留学当初の3か月間のオーストラリアの保育コース入学まえ段階としてそれに対応できる英語力の向上を目的とするものである。所定の英語レベル（語学学校におけるUpper-intermediate）の取得を経て、保育コースに進学するものとする。本英語研修期間は、次の保育コースに備えて、保育関連用語をはじめとした保育コース進学を見据えた英語研修内容となっている。

授業の到達目標
オーストラリアの保育コースに入学するために必要な英語習熟度レベル（Upper-intermediate）のクラスに在籍をする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各語学学校・クラスにおいて、課される課題に積極的に取り組むこと。また、定期的に実施されている補習クラスには、できるだけ参加するようにし、4技能をバランスよく学修すること。

評価方法
各語学学校における評価（出席状況、テストスコア等）70%　アカデミックアドバイザーへ提出する語学研修中報告書 30%

| 教科書<br>なし | 参考図書<br>なし |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分が所属している語学学校のルールに従い授業を受講し、留学中の出欠席は特に厳しく管理されるため注意すること。また、アカデミックアドバイザーとの連絡は大学メールアドレスを使用し、提出期限厳守で報告書を作成すること。

| | |
|---|---|
| 01 | 【現地研修内容】<br>2020年度は、Imagine Education Australia (Gold Coast)、Imagine Education Australia (Brisbane)、BROWNS English Language Schoolの3校に分かれて、語学研修を実施する。渡航後、すぐにPlacement Testを受け、自らの英語習熟度レベルのクラスにて3か月間、集中的に英語4技能のトレーニングを行う（一日平均約6時間の授業を受講予定）。クラス編成はインターナショナルクラスで、日本のみならず他国からの留学生とともに授業を受ける。また、語学研修期間当初の8週間は現地でホームステイをし、実際の生活を体験することにより、異文化への理解を深める。<br><br>【国際教養こども学科における指導内容】<br>2週間ごとに現地での研修についての報告書を指定フォーマットを使用しメールにてアカデミックアドバイザーに提出する。その他の事項（相談等）については、随時、アカデミックアドバイザーに連絡をする。 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:海外保育留学 | 担当者:髙橋 一郎・内田 政一・加藤 あや美・小野 克志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格:Certificate III in Early Childhood Education and Care | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 10 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
国際教養こども学科では、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指すオーストラリアへの11か月留学である海外保育ライセンス・プログラムを必修として位置付けている。本科目は、海外語学研修（3か月の語学研修）後にオーストラリアの保育コース（約7か月）に入学し、資格取得のプログラムにて学ぶものである。プログラム内において、オーストラリアの保育事情について知識を得るとともに現地のChildcare Centreでの実習を通して保育現場の実情についても同時に学んでいく。

授業の到達目標
オーストラリアの保育コースに入学し、所定のプログラムを修了することにより、オーストラリアのアシスタント保育士資格であるCertificate Ⅲ in Early Childhood Education and Careの取得を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各専門学校において、課される課題に積極的に取り組むこと。保育の専門性を高めるために、日々日本の保育との相違点を見出しながら、オーストラリアの保育について学修する。

評価方法
各専門学校における評価（出席状況、課題等）70%　アカデミックアドバイザーへ提出する保育留学中報告書 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | なし |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
自分が所属している専門学校のルールに従い授業を受講し、留学中の出欠席は特に厳しく管理されるため注意すること。また、アカデミックアドバイザーとの連絡は大学メールアドレスを使用し、提出期限厳守で報告書を作成すること。

| | |
|---|---|
| 01 | 【現地研修内容】<br>2020年度は、Imagine Education Australia (Gold Coast)、Imagine Education Australia (Brisbane)の2校に分かれて、保育コースで学修する。それぞれの保育コースにおいて、講義の受講と実習へ参加する。また、プログラムに設定されている各ユニットで課される課題において合格ラインに達することにより、Certificate III in Early Childhood Education and Careの資格を取得するために必要な知識と技能を養っていく。（現地実習40日間×7時間）<br><br>【国際教養こども学科における指導内容】<br>定期的に実習日誌を指定フォーマットを使用しメールにてアカデミックアドバイザーに提出する。その他の事項（相談等）については、随時、アカデミックアドバイザーに連絡をする。各自研究に向けての現地調査等に関する指導についてもアカデミックアドバイザーに相談をしながら行っていく。 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:保育実習Ⅰ（保育所） | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>保育所における保育士の役割は、子どもの保育と保護者の支援や子育て支援が含まれる。そうした保育士の職務を実際に体験することで理解し、保育所の社会的役割や、子ども理解、保護者理解をしていく |
| 授業の到達目標<br>保育を実際に体験することにより、子どもの姿や子どもと保育士のかかわり方、援助の仕方などが理解でき、学生の保育理解に生かされ、保育技術や実践力として身につく。臨機応変な対応や判断力を学ぶ。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>実習に先立ち保育実習Ⅰの事前指導での学びをよく確認すること。事前準備をしっかり行い、ゆとりを持って実習できるようにすること。保育実践に役立つ手遊び・歌遊びや年齢に応じた教材研究をしっかりしておく。 |
| 評価方法<br>実習園からの評価60%　実習日誌20%　実習事後レポート10%　その他（実習への意欲・実習状況など）10% |

| 教科書 | 参考図書<br>保育所保育指針解説書 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>実習前から健康管理に気を付け、実習中は遅刻などしないようにする。急病などで欠席・遅刻する場合は必ず園と大学に連絡を入れる。保育士を目指すものとしての自覚と態度で臨む |

| | |
|---|---|
| 01 | 各地域の指定保育所で2週間の実習を行う<br>主に、観察・参加・指導実習の形態が中心となる：以下実習で学ぶこと<br>・保育所保育士の保育や業務の実際・保育所の施設設備・地域家族との関係・各年齢の子どもの発達の姿・保育所での子どもの生活や遊びの姿・保育士の子どもの関わり方の実際・食事の内容や指導・部分実習、全日実習の指導案の作成・保育記録などを体験的に学ぶ |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:保育実習Ⅰ（施設） | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習へ行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等に加えて、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
実習園からの評価60%、実習日誌20%、実習事後レポート10%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

| 教科書<br>随時紹介する。 | 参考図書<br>保育所保育指針 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習前から健康管理に気をつけること。実習中は遅刻、早退、欠席をせず、充実した実習ができるように心がけること。急病など致し方ない事情で欠席する場合は、ただちに実習先と大学事務に電話すること。保育実習Ⅰ（施設）を再履修する学生においても、保育実習指導Ⅰを再受講することが原則で、実習の履修資格にになる。

| | |
|---|---|
| 01 | ＜居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容＞<br>１．施設の役割と機能 （１）施設の生活と一日の流れ （２）施設の役割と機能<br>２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状態に応じた援助や関わり<br>３．施設における子どもの生活と環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解<br>４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価<br>５．専門職としての保育士の役割と倫理 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:保育実習指導Ⅰ（保育所） | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>保育実習Ⅰの事前指導として保育所に関する知識・実習の意義や実習の在り方、具体的な指導法や実習の心構えを学ぶ。実習後においては、自己評価を行い自己の課題に気付き、事後指導が次の指導に生かせるようにする。講義と演習の方法で行い、確認事項などが確実に伝達され、実習に支障が無いようにする |
| 授業の到達目標<br>保育所保育についての理解と子ども理解を学ぶとともに保育士の職務について理解する<br>具体的な指導案や記録の書き方を学び、実習に向けた実践力と意欲を高める<br>実習後は自己の課題を明確にし改善を図る |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>実習する前に担当する年齢の発達や特徴について十分理解しておく<br>年齢にあった教材研究や責任実習のための準備を早めにしておく<br>子どものモデルとして恥ずかしくないよう、日ごろから態度や言葉に気を付け、保育士としての自覚を持つ |
| 評価方法<br>事前の課題（指導案作成・模擬保育など）50%　事後課題（実習レポート）40%　授業への意欲10%　などを総合的に判断 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| ハンドブック | 保育所保育指針 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>実習を行う前提としての知識・態度・技能を獲得する授業なので、無断欠席をした場合は、実習そのものの履修資格を失う |

| | |
|---|---|
| 01 | 保育実習Ⅰについてのオリエンテーション（実習の流れと諸注意） |
| 02 | 実習に向けての心構え |
| 03 | 実習教材研究 |
| 04 | 指導計画の作成 |
| 05 | 模擬保育の説明・準備 |
| 06 | 実習期間の健康管理など |
| 07 | 模擬保育 |
| 08 | 直前指導 |
| 09 | 事後指導 |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:保育実習指導Ⅰ（施設） | 担当者:木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 3 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
児童福祉施設において約１０日間の実習を行ための準備を行う。保育士が働くことのできる施設についての理解を深めるとともに、施設における保育士の養護を実際に体験することを通して、保育士の多様な役割を深く理解する。

授業の到達目標
１．児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。２．観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深める。３．既習の内容を踏まえ、施設での養護内容や生活環境について総合的に学ぶ。 ４．支援計画の理解と活用、記録及び自己評価等について具体的に理解する。５．施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
施設実習に行くためには、保育実習指導Ⅰの「すべての授業で出席であること」、「すべての課題で合格すること」、これら２点をクリアしておくことが求められる。保育実習指導Ⅰにおける無断欠席や遅刻、提出物忘れ等をしない事に加え、普段からの挨拶は実習生としての資質にかかわることであるから、十分に注意されたい。

評価方法
課題状況60%、出席態度30%、その他（実習への意欲・実習状況など）10%を総合して判断する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | 保育所保育指針 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回出席をとり、無断欠席があった場合や遅刻が多い場合は原則として実習は受けられない。
病欠、忌引きなどの止むを得ない事情の場合は、必ず教務課に連絡すること。後日担当教員から課題の指示をするので必ず教職・保育職支援センターに聞きに行くこと。（欠席課題の他に、次回までの共通課題がある場合がある） 。毎週開講ではなく集中的に授業を行うことがあるので、欠席が重ならないよう健康に留意すること。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 調べ学修（施設別） |
| 03 | グループ別発表会 |
| 04 | 実習先発表・書類の書き方 |
| 05 | 事前訪問について・日誌の書き方 |
| 06 | 外部講師による講話（予定） |
| 07 | 直前指導・自己課題の設定 |
| 08 | 事後指導 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:教育原理 | 担当者:小栁 雅子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>現代の教育システムにおいて教育行政は、いったいどのような役割を担っているのでしょうか。そもそも「行政」は何をするところなのか知っていますか。この授業では教育行政－保育行政の関係性も考えながら、教育を支える行政の役割について学習をして行きましょう。本授業は担当教員による講義と受講生のグループによる発表、および討議によって進行します。 |
| 授業の到達目標<br>①教育行政が我が国の教育においてどのような役割を担っているのかを正しく理解する。②自分自身の実習等実践経験を基に現代の教育・保育の課題を深く考察することができる。③②の課題に対する行政的支援の在り方について理解し、また自分自身で考えることができる。以上３点を本授業の到達目標とします。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>担当教員の講義に対する準備学修は必要ありません。ただし、事後学修として、授業内で学んだことを復習し、関連事項や教育に関わる最新情報に新聞やインターネット、本などを通じて触れるようにしてください。なお、グループ発表については、発表レジュメの作成や発表の練習などの準備学修が必要となります。 |
| 評価方法<br>①グループ発表の内容（100点）、②討議や授業への参加態度（10点×15回＝150点）および③最終レポート（100点）を総合評価します。うち60%（210点）を本授業の単位取得に要する最低点とします。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 使用しません | 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、教育六法等 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>講義形式の授業もありますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだことについて自分なりの疑問や意見を持つ事が大切です。なお、連絡等の必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業オリエンテーション＋「行政」は何をしているところ？ |
| 02 | 現代社会と教育・保育①－現代の教育・保育システムとその特徴 |
| 03 | 現代社会と教育・保育②－これまでの教育行政の役割 |
| 04 | 我が国の教育行政システム①－中央教育行政 |
| 05 | 我が国の教育行政システム②－地方教育行政 |
| 06 | 我が国の教育行政システム③－教育行政と保育行政の関係性 |
| 07 | 諸外国における教育行政システム①－中央教育行政と地方教育行政の関係構造 |
| 08 | 諸外国における教育行政システム②－教育・保育の課題と行政の役割 |
| 09 | 具体的な教育政策を見てみよう①－日本（国・地方） |
| 10 | 具体的な教育政策を見てみよう②－諸外国（国・地方） |
| 11 | 変化する教育行政システム |
| 12 | 教育行政の現代的役割と課題①-教育財政と学校経営 |
| 13 | 教育行政の現代的役割と課題②－教育者・保育者の専門性向上と行政 |
| 14 | 教育行政の現代的役割と課題③－子どもたちへの総合的な支援と行政 |
| 15 | 本授業のまとめ |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:多文化共生研究 | 担当者:髙橋　一郎 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>現代社会において学ぶことの意味について考えることを授業目的とする。教育を狭義の学校教育に絞り込まず、広義にとらえて家庭、社会の場における教育や学ぶことの意味について検討する。これによって現代社会において自らがどう生きるかについても考えていく授業とする。 |
| 授業の到達目標<br>社会の様々な分野に焦点を当て、基礎知識としての簡易講義(教員)、学生の発表、自由討論、意見交換を経て発表者にその回の授業をまとめてもらいます。それらの積み上げで、現代社会の様々な分野に幅広く光を当てる視野を身につけることを目標といたします。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>新聞を読み、ニュースを見て、世の中の動きを把握する。 |
| 評価方法<br>ディスカッションへの参加姿勢70%　毎回のレポート30% |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | 図書館教員指定図書[髙橋]の本 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>積極的な発言（意見、提案）が求められるこの授業において、学生の活発な議論を期待しています。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業概要　クラス編成 |
| 02 | 家族と家庭 |
| 03 | 笑いとユーモア |
| 04 | 法律と道徳 |
| 05 | 公害～ケーススタディ 水俣病 |
| 06 | 学歴 競争社会 平等 |
| 07 | 危機管理 |
| 08 | 親友 友情 |
| 09 | 戦争と平和 |
| 10 | 契約 |
| 11 | 愛 恋愛 |
| 12 | 勤労 職業 |
| 13 | 奉仕 ボランティア |
| 14 | 公共性と倫理 |
| 15 | ネット社会　　全体のまとめ |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:発達心理学 | 担当者:小川 絢子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>子どもの心理を多面的に深く理解するための講義です。本講義では、乳幼児の発達に関する諸研究の成果をふまえつつ、保育者としての子ども理解をより深めていきます。加えて、実践記録の読み合わせ、実習のエピソード発表や子どもの発達を踏まえた指導案の作成・発表などを行い、子どもの発達についての理解をいかに保育実践と結びつけていくかを検討していきます。 |
| 授業の到達目標<br>本授業の目標は以下の3点です。乳幼児期の心身の発達を専門的に理解し、人に説明できる力をつける。乳幼児期の発達と保育実践を結びつけて理解する。さらに、これらの理解を自分の保育にどう活かすかを考察する力を養っていく。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>準備学修として、授業で紹介する実践記録を読んでおきましょう。週1回、15分程度が望ましいです。また、発表の資料作成の時間が1時間程度必要です。事後学修としては、授業で得た子どもの発達に対する理解やそれをふまえた保育実践について、人に話してみる機会を持つとよいと思います。 |
| 評価方法<br>期末レポート（70%）、授業参加態度（15%）、プレゼンテーション（15%)から、総合的に評価します。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合、原則として、期末レポートの提出資格はありません。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>詳細は初回の授業にてお知らせします。 |

| | |
|---|---|
| 01 | イントロダクション |
| 02 | 乳児期①― 乳児期の認知発達と対人関係の変化 |
| 03 | 乳児期②― 0歳児の発達と生活・遊び |
| 04 | 乳児期③― 0歳児の発達を踏まえた実践を考える |
| 05 | 幼児期前半①―乳児期から幼児期へ― 1歳半の節における認知発達と対人関係の変化 |
| 06 | 幼児期前半②―1歳児の発達と生活・遊び |
| 07 | 幼児期前半③―1歳児の発達を踏まえた実践を考える |
| 08 | 幼児期前半④― 2歳児の発達と生活・遊び |
| 09 | 幼児期前半③― 2歳児の発達を踏まえた実践を考える |
| 10 | 幼児期後半①―幼児期後半へ― 3歳から5歳の認知発達と対人関係の変化 |
| 11 | 幼児期後半②― 3歳児の発達と生活・遊び |
| 12 | 幼児期後半③― 4歳児の発達と生活・遊び |
| 13 | 幼児期後半④― 5歳児の発達と生活・遊び |
| 14 | 幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える1 |
| 15 | 幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える2 |
| 16 | 幼児期後半④― 3・4・5歳児の発達を踏まえた実践を考える3 |

2020年度シラバス

| 科目名:保育者論 | 担当者:小島　千恵子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育園長
　保育科での2年間の学びを自分なりに整理して、資格有しながら保育現場で実習を続ける意味について、保育実践や事例あるいは先行研究や文献、保育に通ずる様々な分野から考える。考え方の幅や視野を広げ、あらゆるモノやコトが保育に通じていることを体験的、実践的に学ぶようにし、理論と実践を結び付けて考えを深めることができるようにする。【AL】

授業の到達目標
教諭免許・保育士資格を有する者として、保育における保育者の専門性とは何か、自分の考えを述べることができるようにする。また、保育の現代的課題について関心を深めることや、様々な分野に目を向けることができるようにするなど、保育と向き合うための姿勢や考え方を確立できるようにする。その中で、自分の保育観をさらに磨くようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
保育者の役割や専門性について、さらに調べを進めるようにする。また、保育に関する研究論文や文献に興味関心を深め、読み解くことができるように、何回も読むようにする。自分の考えを簡潔にまとめ発表できるように準備する。

評価方法
授業最後のまとめレポート（40%）授業への参加態度・グループ活動と発表（40%）　提出物（20%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 資料を適宜配布する。 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
グループ活動に積極的に参加することを期待する。

| | |
|---|---|
| 01 | 本講義で何を学ぶのか |
| 02 | 保育者になるとは |
| 03 | 保育とは何か |
| 04 | 保育者を論ずる視点 |
| 05 | 保育を考える視点 |
| 06 | 保育者に必要な資質と専門性 |
| 07 | 保育の計画　　なぜ、保育に計画は必要か |
| 08 | 保育の計画と実践　　保育をデザインしてみよう |
| 09 | 自分が目指す保育の実現に向けて |
| 10 | 乳児、1歳以上3歳未満児の保育のデザイン |
| 11 | 3歳以上児の保育のデザイン |
| 12 | 保育者としての自らへの問い |
| 13 | 保育の現実的課題①　ディスカッション |
| 14 | 保育の現実的課題②　ディスカッション |
| 15 | まとめと振り返り |
| 16 | なし |

| 科目名:幼児と環境 | 担当者:青山 裕美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>乳児を対象にした子育て研究所での音楽実践公演に取り組み、子どもと音楽の理解を深める。子どもが音楽や表現活動を楽しむ姿を探るため、子育て交流会での数回のフィールドワークを課す。その経験をもとに、歌う活動、あるいは合奏活動、音楽劇などの音を介した取り組みを実践する。 |
| 授業の到達目標<br>子育て研究所における音楽実践公演で、未就園児を対象にした表現豊かな音楽実践を行う。グループでのプロジェクトとして、作品を洗練した内容、表現にするための議論を受講者同士が行うこと。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>リハーサル時の表現内容をビデオ考察し、内容と表現についてのレポート課題を3回程度作成する。 |
| 評価方法<br>出席回数40% 課題レポート３0%、プレゼンテーション30%で評価する。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| | |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>音楽教育の技術を学びながら、受講者自身の表現力も同時に学ぶことを期待する。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 受講者による音楽活動経験や、実践での疑問点や課題についての討論 |
| 02 | 子育て支援室訪問 |
| 03 | 子育て支援室訪問 |
| 04 | 子育て支援室訪問 |
| 05 | 音楽実践計画 |
| 06 | 音楽実践計画 |
| 07 | 音楽実践計画 |
| 08 | 音楽実践　リハーサル |
| 09 | 音楽実践　リハーサル |
| 10 | 音楽実践　リハーサル |
| 11 | 音楽実践　リハーサル |
| 12 | 音楽実践　リハーサル |
| 13 | 音楽実践　リハーサル |
| 14 | 音楽実践　1 |
| 15 | 音楽実践　2 |
| 16 | まとめ |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児と言葉 | 担当者:杉山 実加 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。授業内では実際に言葉遊びをグループで体験したり、発表しあうことで、子どもが感じるであろう楽しさを理解し、それを保育や子ども理解へ繋げられるようにする【AL】 |
| 授業の到達目標<br>1、言葉の機能や意義を理解する。<br>2、言葉に対する感覚を豊かにするための実践について理論・技術を身につける。<br>3、児童文化財について理解を深める。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>日常生活に溢れる言葉に関心を持つようにしてください。授業内で学んだことは復習し、わからないことは整理しておきましょう。また、学んだ内容について授業後も情報を集めるなどして、自分の考え・知識を深めるようにしてください。 |
| 評価方法<br>授業態度10%　授業内課題50%　確認テスト30%　グループワーク参加状況10% |

| 教科書 | 参考図書<br>保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
|---|---|

| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) |
|---|
| |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業オリエンテーション、言葉とは何か考える |
| 02 | 子どもの言葉の発達過程 |
| 03 | 言葉の美しさ・楽しさを感じよう―絵本と言葉― |
| 04 | 子どもと言葉遊び（1）言葉を集める |
| 05 | 子どもと言葉遊び（2）オリジナルの物語を作る |
| 06 | 子どもと書き言葉 |
| 07 | 日本語の面白さ―オノマトペの魅力― |
| 08 | 言葉に対する感覚を豊かにする経験について考える・確認テスト |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（環境） | 担当者:橋村 晴美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
ひとは様々な環境に直接働きかけ、そこから答えを受け取るという相互関係を通して発達を遂げている。本科目では、幼児期の思考、科学的概念の発達、身近な環境へのかかわりの発達などについて、保育と関連づけけて考えていけるよう、実際に子どもの気持ちになって体験活動を行う。主な取り組みとしては、自然環境や社会環境を体験するためのワークショップや観察形式の活動を実施していく。

授業の到達目標
子どもの身近にある環境に基づき、保育・教育のために臨機応変に提案できる知識と実践力を身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・保育内容領域「環境」を熟読しておく。
・日々の生活の中で、自分のおかれた環境を客観的に捉える。
・その環境の中で、子どもの興味・関心がどのようなところにあるのか、意識を向ける。

評価方法
小テスト　30%
確認テスト　70%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 随時資料を配布する | 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説書 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
環境に関する書籍を１冊は通読しておく。

| | |
|---|---|
| 01 | 幼児を取り巻く環境とその課題 |
| 02 | 発達における環境とのかかわり（１）能動性・好奇心・有能感とはなにか |
| 03 | 発達における環境とのかかわり（２）アフォーダンス |
| 04 | 乳幼児期の認知的発達　思考力と幼小接続 |
| 05 | 乳幼児期の数量・図形とのかかわり（１）事例を通して考える |
| 06 | 乳幼児期の数量・図形とのかかわり（２）体験を通して考える |
| 07 | 乳幼児の自然とのかかわり（１）天象と気象・生物季節・行事 |
| 08 | 乳幼児の自然とのかかわり（２）自然物とかかわる |
| 09 | 乳幼児の自然とのかかわり（３）生き物とかかわる |
| 10 | 乳幼児の文字とのかかわり（１）事例を通して考える |
| 11 | 乳幼児の文字とのかかわり（２）体験を通して考える |
| 12 | 乳幼児の情報・施設とのかかわり |
| 13 | 保育者としての質の向上：子どもの疑問について考える |
| 14 | 環境と自然：生命尊重と生物多様性保全 |
| 15 | まとめ　確認テスト |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（言葉） | 担当者:太田 昌孝 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択 |

授業概要と方法
【言葉】は人間固有のコミュニケーションツールであるだけでなく、人間がその特性を生かして生きてゆくための中枢を形成する。本講義では幼児期における言葉の獲得と応用の関係を学ぶと共に、様々な文学作品をテキストに【言葉】が持つ本質的な内実と可能性についてより深く学び、幼児と言葉の緊密な関係性の中心にあるものを習得する。

授業の到達目標
①【言葉】の持つ基本的性質について理解する。②言葉の力を育てる保育者の基本的姿勢と理念について理解する。
③　①②で習得した内容を基に保育現場での実践力について深く学ぶ。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①日常生活の中で、常に幼児の発する言葉を傾聴する。②幼児向けの文学作品の読み聞かせ等を通じて、自らの言語感覚を錬磨する。

評価方法
課題20%。レポート80%の割合で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 毎回、プリントを用意する。 | 『保育内容・言葉』（同文書院）・『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①系統的な講義なので欠席をしないように心がける。②講義におけるマナーを遵守する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・【言葉】とは何か。 |
| 02 | 幼稚園教育要領・保育所保育方針【言葉】の領域について。 |
| 03 | 「子どもの言葉と育ち」①『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 04 | 「子どもの言葉と育ち」②『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 05 | 「子どもの言葉と育ち」③『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 06 | 「子どもの言葉と保育者」①『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 07 | 「子どもの言葉と保育者」②『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 08 | 「子どもの言葉と保育者」③『保育内容・言葉』（同文書院）をテキストに使用。 |
| 09 | 「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」①『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス） |
| 10 | 「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」②『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス） |
| 11 | 「特別な配慮が必要な子どもとの関わり」③『気になる子のわらべうた』（クレヨンハウス） |
| 12 | 「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」①『泣いた赤鬼』をテキストに使用。 |
| 13 | 「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」②『桃太郎』をテキストに使用。 |
| 14 | 「絵と言葉の豊かな世界を楽しむ」③『双子の星』をテキストに使用。 |
| 15 | 講義のまとめ |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児音楽A | 担当者:近藤 茂之 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>短大で学んだ基礎技能をもとに、さらなる音楽性および表現能力の向上を目指す。受講人数によって多少方法が異なるが、個人またはグループによる表現、発表を行う。 |
| 授業の到達目標<br>人前で表現することに慣れる。そのためには、どのような準備と工夫が必要であるか、考える力を養う。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>演奏だけでなく楽譜を記すための基本的な音楽理論を再確認する。有資格者であるので、いつ現場に出ても通用するように、常に弾き歌いのレパートリーをキープしておくこと。当然ながら、全て暗譜である。 |
| 評価方法<br>授業への参加・取り組み40%　発表60%（子どもの歌をつくろう30%・連弾30%） |

| 教科書<br>特になし | 参考図書<br>その都度紹介する。 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>短大授業とは異なり、学生個々の目指す音楽表現について、自身の進路に必要な技術とは何かについて考えることが肝要である。また、与えられた課題については自己の能力の限界に常に挑み続けること。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業ガイダンス（概要の説明） |
| 02 | 子どもの歌をつくろうⅠ |
| 03 | 子どもの歌をつくろうⅡ |
| 04 | 子どもの歌をつくろうⅢ |
| 05 | 子どもの歌をつくろうⅣ |
| 06 | 子どもの歌をつくろうⅤ |
| 07 | 子どもの歌をつくろうⅥ |
| 08 | 子どもの歌をつくろうⅦ |
| 09 | 子どもの歌をつくろうの発表 |
| 10 | 連弾をしようⅠ |
| 11 | 連弾をしようⅡ |
| 12 | 連弾をしようⅢ |
| 13 | 連弾をしようⅣ |
| 14 | 連弾をしよう　リハーサル |
| 15 | 連弾発表会 |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児音楽B | 担当者:近藤 茂之 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>短大で学んだ基礎技能をもとに、さらなる音楽性および表現能力の向上を目指す。受講人数によって多少方法が異なるが、個人またはグループによる表現、発表を行う。 |
| 授業の到達目標<br>人前で表現することに慣れる。そのためには、どのような準備と工夫が必要であるか、考える力を養う。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>演奏だけでなく楽譜を記すための基本的な音楽理論を再確認する。有資格者であるので、いつ現場に出ても通用するように、常に弾き歌いのレパートリーをキープしておくこと。当然ながら、全て暗譜である。 |
| 評価方法<br>授業への参加・取り組み40%　発表60%（子どもの歌をつくろう30%・連弾30%） |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | その都度紹介する。 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>短大授業とは異なり、学生個々の目指す音楽表現について、自身の進路に必要な技術とは何かについて考えることが肝要である。また、与えられた課題については自己の能力の限界に常に挑み続けること。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 授業ガイダンス（概要の説明） |
| 02 | 子どもの歌をつくろうⅠ |
| 03 | 子どもの歌をつくろうⅡ |
| 04 | 子どもの歌をつくろうⅢ |
| 05 | 子どもの歌をつくろうⅣ |
| 06 | 子どもの歌をつくろうⅤ |
| 07 | 子どもの歌をつくろうⅥ |
| 08 | 子どもの歌をつくろうⅦ |
| 09 | 子どもの歌をつくろうの発表 |
| 10 | 連弾をしようⅠ |
| 11 | 連弾をしようⅡ |
| 12 | 連弾をしようⅢ |
| 13 | 連弾をしようⅣ |
| 14 | 連弾をしよう　リハーサル |
| 15 | 連弾発表会 |

| 科目名:幼児造形A | 担当者:高田　吉朗 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
図画工作というのは、感覚と思考を豊かにするその土台を開発する役割があると考えられます。本講では幼児の発達段階に即した造形表現を立案できる能力を育成することを目標としその指導方法を検討する。

授業の到達目標
短大時の造形技術や表現を基礎にして、よりステップアップした質の作品を作り上げる。 既に実習を経験し有資格者として保育現場に即した作品を作り上げる。 幼児の造形に留まらず、将来に繋がる芸術感覚を広く身につける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
制作を進めるうえでの計画性と応用性を日常から心掛けること。 展覧会などに足を運び、作品に触れ感性を磨く。

評価方法
作品の評価50%、出席状況を含めた受講態度50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | テーマに合わせて紹介 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
お互いの作品を鑑賞し参考にしたり指導方法を検討したり出来るように心掛ける。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス・アートリテラシー |
| 02 | 保育教材作り（計画・制作) |
| 03 | 保育教材作り　(制作) |
| 04 | 保育教材作り（制作) |
| 05 | 保育教材作り（制作) |
| 06 | 保育教材作り（制作) |
| 07 | 焼き物風鈴作り |
| 08 | 焼き物風鈴作り |
| 09 | 子どもの姿を描く |
| 10 | 子どもの姿を描く |
| 11 | 夏祭りの造形 |
| 12 | 夏祭りの造形 |
| 13 | 夏祭りの造形 |
| 14 | 夏祭りの造形 |
| 15 | 夏祭りの造形 |
| 16 | まとめ |

| 科目名:幼児造形B | 担当者:高田　吉朗 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>図画工作というのは、感覚と思考を豊かにするその土台を開発する役割があると考えられます。本講では幼児の発達段階に即した造形表現を立案できる能力を育成することを目標としその指導方法を検討する。 |
| 授業の到達目標<br>短大時の造形技術や表現を基礎にして、よりステップアップした質の作品を作り上げる。 既に実習を経験し有資格者として保育現場に即した作品を作り上げる。 幼児の造形に留まらず、将来に繋がる芸術感覚を広く身につける。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>制作を進めるうえでの計画性と応用性を日常から心掛けること。 展覧会などに足を運び、作品に触れ感性を磨く。 |
| 評価方法<br>作品の評価50%、出席状況を含めた受講態度50% |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし | テーマに合わせて紹介 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>お互いの作品を鑑賞し参考にしたり指導方法を検討したり出来るように心掛ける。 |

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス・アートリテラシー |
| 02 | 保育教材作り（計画・制作) |
| 03 | 保育教材作り　(制作) |
| 04 | 保育教材作り（制作) |
| 05 | 保育教材作り（制作) |
| 06 | 保育教材作り（制作) |
| 07 | 焼き物風鈴作り |
| 08 | 焼き物風鈴作り |
| 09 | 子どもの姿を描く |
| 10 | 子どもの姿を描く |
| 11 | 夏祭りの造形 |
| 12 | 夏祭りの造形 |
| 13 | 夏祭りの造形 |
| 14 | 夏祭りの造形 |
| 15 | 夏祭りの造形 |
| 16 | まとめ |

| 科目名:幼児体育A | 担当者:平野 朋枝 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシー1(理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連している。授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目を履修する場合は、「幼児体育特演II」も履修することが望ましい。

授業の到達目標
１．乳幼児の運動発達を理解する。
２．乳幼児が様々な運動を経験するための環境を構成できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　実践への取り組み状況（30%）、提出物（40%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配付する | 「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

| | |
|---|---|
| 01 | 現代の子どもの体力・運動能力，外遊びの重要性 |
| 02 | 乳幼児期の運動発達 |
| 03 | 運遊び環境の構成、安全面への配慮 |
| 04 | 低年齢児の運動面の発達と健康課題 |
| 05 | 就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成① |
| 06 | 就園児とその保護者を対象とした運動遊びの環境構成② |
| 07 | 未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方 |
| 08 | まとめ |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:幼児体育B | 担当者:平野 朋枝 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　本科目は、保育科ディプロマポリシー1(理論的・実践的な問題解決能力)に大きく関連している。授業では、未就園児とその保護者を対象として、運動遊びの環境を提供し、運動を楽しむことを目的とした援助を行う。この取り組みは本学近隣在住の保護者への子育て支援事業を行う桜花学園子育て交流会や名古屋短期大学付属幼稚園と連携して、地域の子育てに関わる課題解決を目指している。　実践を通して、現代の子どもの体力・運動能力の状況や、幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得についての知識・技術を身につける。
　この科目の受講に当たっては、「幼児体育特演I」が必須である。

授業の到達目標
１．子どもが達成感を味わえるような援助ができるようになる。
２．運動遊びの計画、実践、評価、再計画、改善ができるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　運動遊びの参考書などを用いて、体を動かす遊びのレパートリーを増やしておくこと。より良い実践を目指して、授業以外でも環境の構成に必要な物品の準備や学生同士の意見交換を行うようにすること。また、日ごろから子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。

評価方法
　実践への取り組み状況（30%）、提出物（40%）、授業に取り組む態度（30%）より、総合的に評価する。授業記録（ノート）は期末試験に相当するため、必ず提出しなければならない。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配付する | 「幼児体育」（建帛社）　「保育と幼児期の運動遊び」（萌文書林） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・運動するのにふさわしい服装・身だしなみでなければ受講を認めない。・日頃から運動に親しんだり、戸外で活動したりすることを心がけましょう。

| | |
|---|---|
| 01 | 未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの援助の在り方 |
| 02 | 未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第1回） |
| 03 | 第1回実践の振り返りと次回の準備 |
| 04 | 未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第2回） |
| 05 | 第2回実践の振り返りと次回の準備 |
| 06 | 未就園児とその保護者を対象とした運動遊びの実践（第3回） |
| 07 | 第3回実践の振り返り |
| 08 | まとめ |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容総論 | 担当者:吉田 真弓 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>この授業では、ディプロマポリシーにある、保育と子育てに関する高度な専門知識と実践的技能の修得に関連し、保育と子育ての専門家に必要な子どもの命を守る事故予防についての学びを深める。レポート発表やプレゼンテーションを通し、グループでの討議を行い、専門的知識を修得する。 |
| 授業の到達目標<br>園内で起こる深刻な事故はなぜ起こるのかを学び、深刻な事故を予防する視点を身に付ける。また、事故予防に必要な園内コミュニケーションや保護者とのコミュニケーションの在り方を理解する。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>日頃からニュースや新聞記事等に関心をもち、園内及び園外保育等で起きた深刻な事故について、情報を得るようにし、授業での学びと結び付けて考えるようにする。 |
| 評価方法<br>授業の参加態度・授業の振り返り（30%）　レポート発表（40%）　テスト（30%） |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 子どもの「命」の守り方　エイデル研究所 | |

| その他(学生へのアドバイス、連絡手段) |
|---|
| |

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション　保育における「安全」をめぐって |
| 02 | 「深刻さ」を的確に把握するための視点① |
| 03 | 「深刻さ」を的確に把握するための視点② |
| 04 | 保育施設におけるリスク・コミュニケーション① |
| 05 | 保育施設におけるリスク・コミュニケーション② |
| 06 | グループワーク |
| 07 | グループワーク |
| 08 | すべての基礎、園内コミュニケーションをつくる① |
| 09 | すべての基礎、園内コミュニケーションをつくる② |
| 10 | リスクを伝え、保護者と園のリスク意識を育てる |
| 11 | グループワーク |
| 12 | グループワーク |
| 13 | 事故予防に取り組むことのむずかしさを理解しよう |
| 14 | 事故予防に取り組むための基礎を知ろう |
| 15 | ハザードをみつけ、効果的な対策を立てよう |
| 16 | まとめと確認テスト |

2020年度シラバス

| 科目名:子ども理解の理論と方法 | 担当者:小嶋 玲子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

授業概要と方法
できるだけ具体的に、実際の子どもの事例を基に子ども理解を考えていく。自分が実習やボランティアで会った子どもたちをどのように理解しているのか常に振り返りながら、学生同士の意見交換をふまえ、多様な子ども理解の視点と支援方法を学ぶ。

授業の到達目標
育・教育の基本は子ども理解から始まる。この授業では、臨床心理学的視点から子ども理解について学ぶ。園生活の中で体験や学びがどのように子どもの発達を促しているのか、そこでのつまずきはどのように起こるのかについて学ぶ。そして、子どもの発達を促し、つまずきを防いだり、軽減したりする対応や方法について自ら考え、対処する力を獲得する。
対人援助を行うためには，自分のこころの理解も必要となるので，授業を通して，自己理解をすることもこの授業目標となる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活や実習、ボランティアで出会う子どもについてしっかり観察をして子ども理解を深めてください。
授業で出す課題にしっかり取り組んでください。授業時を欠席した場合でも、その回の課題は提出すること。

評価方法
試験50%、授業時の課題50%　ただし、それぞれについて60%以上の成績を求めます。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| なし | 保育所保育指針解説　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　幼稚園教育要領解説　全国保育士会編（2016）「養護と教育が一体となった保育の言語化」 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先・オフィスアワーは授業時に開示する。さまざまな視点から子どもを理解するためには、他者の見方を学ぶ必要があります。授業では、学生同士の意見交換をしますので、積極的に授業に参加してください。

| | |
|---|---|
| 01 | 保育・教育における子ども理解の意義を学ぶ |
| 02 | 子どもの姿から子どもの発達や学びを理解する |
| 03 | 関係性の視点から子ども理解について学ぶ |
| 04 | 子どもにとっての集団保育の意義と個別の援助について理解する |
| 05 | 子どもに対する共感的理解と応答的関わりについて学ぶ |
| 06 | 子ども理解のための理論を学ぶ |
| 07 | 子ども理解のための観察・面接法を学び、子どもの言葉や行動から子どもを理解する |
| 08 | 心理検査を知り、子ども理解に生かす方法を学ぶ |
| 09 | 子どもの発達に伴う心の問題の表れ方について学び、小学校への接続についても理解する |
| 10 | 着形成について学び、親子の関係性の理解につなげる |
| 11 | 虐待や不適切な養育環境で育った子どもたちへの理解と援助について学ぶ |
| 12 | 子どもの心身の不調とその対応について学ぶ |
| 13 | 特別な教育的ニーズを持った子ども理解と援助について学ぶ |
| 14 | 職員間・職員と保護者間での子ども理解についての連携や評価について学ぶ |
| 15 | 保護者の子ども理解を促進する方法について学ぶ |
| 16 | 試験<br>試験 |

| 科目名:社会的養護Ⅰ | 担当者:近藤　日出夫 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>社会的養護とは何か、保護を必要とする子どもたち(被虐待など)の児童養護施設などにおける日常生活を紹介するなかで、より良い支援の在り方を学ぶ第1歩とする。映像による児童養護施設の子どもたちの声を届け、より身近な存在として捉えられるようにする。併せて施設実習への動機付けと不安の払しょくに繋げる。 |
| 授業の到達目標<br>社会的養護と家庭養護の違いを明らかにし、我が国の児童福祉行政の現状について認識を深める。専門職として求められる育てにくい子どもや保護者に対し、ソーシャルワークの視点にたって考えを深める。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>社会の動きと子育てはリンクしており、格差社会が広がる中、一番力の弱い子どもたちが犠牲になっている現実を重く受け止められる視点を育てたい。そのため新聞などのマスコミ報道を見聞きし見聞を深める。積極的に児童福祉施設へのボランティア活動を推奨する（百聞は一見に如かず）。 |
| 評価方法<br>毎講義ごとのレポートの提出を義務付け評価の5割とする。残りは最終講義のまとめと授業の出席率を勘案して最終評価を決定する。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護　監修：喜多一憲　編集：堀場純矢　発行所：株式会社みらい | 「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他授業の中で紹介する |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>質問などは火曜日昼休みに講師控室まで |

| | |
|---|---|
| 01 | 今日の社会的養護 |
| 02 | 社会的養護と子どもの権利 |
| 03 | 里親制度やファミリーホームについて |
| 04 | 社会的養護における自立支援計画について |
| 05 | 社会的養護における日常生活の中での支援について |
| 06 | みんなで行う治療的支援 |
| 07 | 自立支援に繋げる援助支援体制について |
| 08 | 児童養護施設などに暮らす子どもたちの映像を通して実態を知る |
| 09 | 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識と技術 |
| 10 | ソーシャルワークと社会的養護 |
| 11 | 施設の小規模化の流れ |
| 12 | 小規模施設の課題 |
| 13 | 児童養護施設の機能と地域分散化の流れ |
| 14 | 社会的養護の課題とこれから |
| 15 | 社会的養護のまとめ |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:教育の方法 | 担当者:福島 耕平・内田 将平 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　この授業では、小学校教育の方法・技術についての講義を行う。また、ICT活用の方法と技術や指導法を学ぶ（福島担当分1～８）。幼稚園の保育の方法の基本理解、授業の方法は、幼稚園における事例や実践記録を読んだり、実践場面のビデオを見たりする。（内田担当分9～15）。両担当とも、Moodleを活用した相互意見交流の機会を設ける。

授業の到達目標
①幼稚園教育の方法・技術を理解する。
②小学校との連携についてその方法・技術を理解する。
③小学校の教育の方法・技術について理解する。
④ICTの活用方法を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　日頃から教育・保育に関する新聞（ネットニュース）スクラップ等を行い、各自の興味関心のある分野の情報収集を行うようにしてください。

評価方法
福島担当分50点、内田担当分50点の計100点で評価する。
両担当とも、授業内レポート（20%)、最終レポート（30%)割合で、総合評価とする。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特に設定しない。 | 幼稚園教育要領及び解説、保育所保育指針及び解説、小学校学習指導要領 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　Moodleを活用し資料の提示、講義内での相互意見交流、レポートの課題を設けます。講義中にMoodleを活用するため、講義にはパソコンが必携です。オフィスアワーや連絡先は初回授業時に伝えます。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | 教育方法の基礎的理論 |
| 03 | 主体的・対話的で深い学びとは |
| 04 | 授業設計の基礎と授業スキル |
| 05 | 指導案の作成と教育評価 |
| 06 | 教育の情報化とは |
| 07 | プログラミング教育の方法と技術 |
| 08 | 学校現場におけるICT活用事例 |
| 09 | 幼稚園における集団生活の意義と遊びを通した教育の方法 |
| 10 | 子どもたちのトラブルへの対応方法・技術 |
| 11 | 障害をもつ子どもたちをめぐる教育方法・技術 |
| 12 | 諸外国の幼児教育から学ぶ①：ドイツ |
| 13 | 諸外国の幼児教育から学ぶ①：ハンガリー |
| 14 | 幼児教育における評価と方法 |
| 15 | 幼稚園と小学校の連携課題と教育方法 |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（人間関係） | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。主体的対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける

授業の到達目標
乳幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する（特に、少子化・核家族・虐待・貧困）
領域「人間関係」のねらい内容を理解し、構想し、実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
実習やボランティア・アルバイトなどで子どもの様子をよく観察する。また子ども同士の関りや保育者と子どもとの関り、又は保護者を含む大人と子どもの関りをよく観察すること

評価方法
課題レポート４０％・授業参加・集団討論参加内容30%・最終レポート30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 保育所保育指針（解説書） | 幼稚園教育要領解説書・保育所保育指針解説書・幼保連携型認定こども園教育保育要領解説書 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
a-harada@ohkagakuenn -u.ac.jp
オフィスアワー金曜日昼休み

| | |
|---|---|
| 01 | 人と関わる力：現代社会と乳幼児の人間関係 |
| 02 | 人と関わる力：人間関係の理論的枠組み |
| 03 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領の「人間関係」 |
| 04 | 0歳児の人間関係 |
| 05 | 1歳児の人間関係 |
| 06 | 2歳児の人間関係 |
| 07 | 3歳児の人間関係 |
| 08 | 4歳児の人間関係 |
| 09 | 5歳児の人間関係 |
| 10 | 自立心・主体性をはぐくむ援助の在り方・指導案の作成と模擬授業 |
| 11 | 協力・共同をはぐくむ援助の在り方・教材研究と情報機器の活用 |
| 12 | かみつき・いざこざの援助の在り方 |
| 13 | 就学前にまでに育ってほしい姿の考察と援助の在り方 |
| 14 | 保護者との人間関係 |
| 15 | 職場での人間関係：人間関係まとめ |
| 16 | |

| 科目名:障害児保育 | 担当者:勝浦 眞仁・小柳津 和博・柏倉 秀克 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:なし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
１．障害児保育を支える理念、２． 障害児等の理解と保育における発達の援助、３．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際、４．家庭及び自治体・関係機関との連携 、５．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状 と課題 、これらについてDVD等の映像や事例を活用しながら学ぶ。

授業の到達目標
① 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。
② 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
③ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
④ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関 係機関との連携・協働について理解する。
⑤ 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状 と課題について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書を読み、授業内容の発表を学生が行う。オリエンテーションでグループ分けを行う。事例検討についてもグループ分けし、支援の方法を学び合う。障がいのある子どもに係わるテレビや新聞・ネットの記事などに普段から着目するようにしていくこと。

評価方法
３名の教員の評価点を合計して、成績評価を行う。授業内容発表（10%）、事例検討会発表（15%）、小テスト・レポート（60%）、授業への参加態度（15%）により総合的に評価する。

教科書
特別の支援を必要とする子どもの理解―共に育つ保育を目指して―（勝浦眞仁編著、ナカニシヤ出版）

参考図書
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所保育指針および解説
幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説
保育所

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者を目指す学生にとって、障がいのある子どもたちとの出会いは貴重な機会であり、自身の保育観・障がい観を見つめ直す機会となる。２年生での学びやこれまでの実習での体験を基に、さらに理解を深めてほしい。
連絡先：katuura@ohkagakuen-u.ac.jp
oyaizu@ohkagakuen-u.ac.jp
kashiwakura@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | ＜柏倉担当＞　障害児保育の歴史的変遷―統合保育まで― |
| 03 | 障害児保育の現状―インクルージョンに向けて― |
| 04 | 特別支援教育からインクルーシブ教育へ―障害者権利条約と合理的配慮― |
| 05 | 関係者との連携（地域専門機関、小学校） |
| 06 | ＜勝浦担当＞　障害児保育の対象：２年時の復習と配慮を必要とする子ども（気になる子ども） |
| 07 | ＮＰＯ・学童保育での障害児保育 |
| 08 | 「共に育つ」保育を目指して |
| 09 | 乳幼児健康診査、就学時健康診断 |
| 10 | ＜小柳津担当＞　子ども同士の関わり合い・育ち合い |
| 11 | 個々の発達を促す生活と遊びの環境 |
| 12 | 保護者・家族への連携 |
| 13 | 個別の支援計画・指導計画の作成と活用、ケース会議 |
| 14 | 事例検討会の準備 |
| 15 | 事例検討会（発表） |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:乳児保育Ⅰ | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院での経験や保育所園長の経験を踏まえ、乳児保育の意義や役割を具体的に検討し、乳児保育が社会で果たす役割や、0歳から2歳の発達の特徴、保育で保育者が配慮すること、乳児保育における保育者の役割、大切にしたいことなど、加えて乳児期の遊びの種類や方法を学びます。

授業の到達目標
人間形成の基礎である乳児期は、その後のどの発達時期と比べてみても一番目覚ましい発達を遂げる時期です。この乳児期の発達段階に合わせた保育ができるように基礎的な知識を理論を保育の事例から学びます。また教材作成等の実技を行い具体的な技能も高めていきます。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で提示する参考文献を読むこと。ボランティアなどで乳児に接する機会を多く持つこと

評価方法
課題レポート40%・授業参加・グループ討論参加態度３０%・最終レポート３０%・

| 教科書 | 参考図書<br>保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書、幼稚園教育要領解説書 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この授業は、演習ですので、乳児保育を実践する力を培うため、グループ討論、教材研究とその指導法も学んでいきます。
a-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp　オフィスアワー金曜日昼休み

| | |
|---|---|
| 01 | 乳児保育が社会で果たす役割 |
| 02 | 乳児保育での保育者の役割 |
| 03 | 乳児保育のこれまでとこれから |
| 04 | 0歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 05 | 0歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 06 | 1歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 07 | 1歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 08 | 2歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 09 | 2歳児後半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 10 | 3歳児前半の発達の特徴と保育で配慮すること |
| 11 | 乳児保育の内容と方法 |
| 12 | 乳児保育のあそび・教材研究 |
| 13 | 乳児保育の保育記録と保育計画Ⅰ・指導案の作成 |
| 14 | 乳児保育の保育記録と保育計画Ⅱ・情報機器の活用 |
| 15 | 乳児保育のまとめ　確認テスト |
| 16 | |

| 科目名:社会的養護Ⅱ | 担当者:上田 一稔 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　本授業は保育学部の教育・保育の本質・目的に関する科目に配置された専門教育科目であり、子どもを社会的に養護していくための知識や技術について学修する。具体的には施設養護と家庭養護の特性把握、個々の子どもに応じた支援計画の作成、日常生活支援・心理的支援・自立支援の方法を理解し、保育者としての支援力を習得する。授業は毎回演習方式で少人数のグループを作り、各事例に対してグループワークを行う。

授業の到達目標
1. 社会的養護における子どもの権利擁護について理解する。
2. 施設養護および家庭養護の役割や機能について理解する。
3. 個々の子どもに応じた個別支援計画書の作成の意味と留意点を理解する。
4. 社会的養護における保育士の専門性を学び、支援者としての援助実践力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　社会的に養護を必要とする子どもを支援する保育者は、適切な支援および技術を習得する必要がある。したがって、社会的養護に関連する文献(虐待・障害・貧困等)を読み、児童福祉施設でのボランティア活動および見学(1回4時間程度)を行うなどして研鑽することを推奨する。

評価方法
確認テスト(40%)、授業への参加態度(25%)、レポート(35%)により総合的に評価する。

教科書
「児童の福祉を考える(演習)社会的養護Ⅱ」　　吉田眞理編著　　萌文書林
「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

参考図書
保育所保育指針。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　日頃から子どもを取り巻く報道に関心を寄せ、自分自身の見解を持ち、授業時に発表できるようにする。授業後30分をオフィスアワーとする。連絡先は授業時に開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・子どもの権利擁護 |
| 02 | 施設養護の特性および実際①(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設) |
| 03 | 施設養護の特性および実際②(障害児施設・児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設) |
| 04 | 家庭養護の特性および実際 |
| 05 | 社会的養護の内容(日常生活支援・心理的支援・自立支援) |
| 06 | 個別支援計画の作成(自立支援計画・児童発達支援計画)・記録および自己評価 |
| 07 | 社会的養護における保育士の専門性および相談援助の知識と技術の実践 |
| 08 | 社会的養護の課題および展望・確認テスト |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:海外の保育 | 担当者:小野 克志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
将来の日本社会の発展を考えたとき、世界的な競争と共生が進む現代社会で豊かなコミュニケーション能力を身につけ、異文化体験を積み、国際社会で活躍する人材が増えていくことは極めて重要であると考える。この授業では、諸外国の現行の保育制度、子育て制度に関する特性、形態を考察し、新しい時代を生きる子どもたちに相応しい、保育、幼児教育、子育てのあり方を考えたい。

授業の到達目標
海外の保育・幼児教育のあり方を知り、その共通性と多様性を理解し、日本の保育・幼児教育の目指す方向性についても自分なりの考え方を持ち、説明することができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
新聞やニュースに触れて、時事問題や文化を知り、自分の興味の幅や視野を広げておく

評価方法
授業への参加態度 50%　小テスト　25%　確認テスト　25%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 | 授業内で紹介します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業担当者への連絡方法は、授業内でお知らせします。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業概要 |
| 02 | 諸外国と日本 ～日本の保育・幼児教育はどこは向かうのか |
| 03 | 諸外国と日本 ～世界が保育・幼児教育に投資する理由 |
| 04 | オーストラリアの保育・幼児教育①（EYLF） |
| 05 | オーストラリアの保育・幼児教育②（The NQF） |
| 06 | ニュージーランドの保育・幼児教育①（Te Whariki） |
| 07 | ニュージーランドの保育・幼児教育②（Assessment in Early Childhood Settings） |
| 08 | イタリアの保育・幼児教育① レッジョ・アプローチ |
| 09 | イタリアの保育・幼児教育② モンテッソーリ教育 |
| 10 | ヨーロッパの子育て・保育①　（スウェーデン） |
| 11 | ヨーロッパの子育て・保育②　（フランス） |
| 12 | ヨーロッパの子育て・保育③（デンマーク、オランダ） |
| 13 | ヨーロッパの保育・幼児教育④　（フィンランド、ノルウェー） |
| 14 | アジア諸国の保育・幼児教育 |
| 15 | 多文化共生、多文化教育 |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:子どもの食と栄養 | 担当者:辻岡 和代・鈴村 昌子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
１．健康な生活の基本として食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学ぶための講義（6回）
２．子どもの発育・発達と食生活、特別な配慮を要する子どもの食についての理解を深める為の演習（6回）
３．グループ学習とプレゼンテーション（3回）

授業の到達目標
１．食と健康がどのように関わっているかを理解する。
２．保育者として必要な栄養についての基礎知識や、食育、食生活に関する諸問題について理解する。
３．保育園、幼稚園、小学校における食育を実践するための基礎的なスキルを身につけることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
自分自身の食生活についての振り返りを常に行ってください。また、食と栄養に関する情報の真偽が自分で判断できるように授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。さらに、子どもの食について理解を深めるため、ボランティア活動や実習の際には、園での取り組みをしっかり学んできてください。

評価方法
授業への参加態度30%、確認テスト40%、プレゼンテーション30%の割合で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 子どもの食と栄養　建帛社 | 保育所保育指針　等 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は、メール、Moodleまたはオフィスアワーで受け付ける。詳細については授業で開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | 子どもの健康と食生活の意義　　（辻岡） |
| 02 | 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（１）母乳・育児用ミルク　（辻岡） |
| 03 | 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（２）冷凍母乳・離乳食　（辻岡） |
| 04 | 幼児期の心身の発達と食生活・家庭や児童福祉施設における食事と栄養　（辻岡） |
| 05 | 学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活　（辻岡） |
| 06 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養　（辻岡） |
| 07 | 食育の基本と内容　（辻岡） |
| 08 | 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（１）炭水化物　（鈴村） |
| 09 | 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（２）タンパク質　（鈴村） |
| 10 | 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（３）脂質　（鈴村） |
| 11 | 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（４）ビタミン・ミネラル　（鈴村） |
| 12 | 食事摂取基準　（鈴村） |
| 13 | 献立作成・調理の基本（鈴村） |
| 14 | 総括と確認テスト　（鈴村） |
| 15 | プレゼンテーションとその活用　（辻岡・鈴村） |
| 16 | |

# 2020年度シラバス

| 科目名:地域研究Ⅰ | 担当者:髙橋　一郎 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
オーストラリアの歴史は、高校の世界史にも登場せず、一般に学ぶ機会はほとんどない。本科目では、国際教養こども学科学生としてオーストラリアへの長期留学を見据えて、同国事情を学ぶ。同国の成立から歴史、社会全般を学ぶ。特に白豪主義から文化多元主義に転換したオーストラリア社会の変化については詳しく扱う

授業の到達目標
オーストラリア事情全般に明るくなるようになることを到達目標とする。実際にこの科目終了後1ヶ月後には現地での生活(留学)が始まるので、現地事情とその文化的・歴史的背景をしっかり学び同国事情に詳しく知っていると言えるものとなるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
近づく長期留学と有機的に関連付けて、オーストラリアに関する総合的知識を上げるべく各自で努力すること。

評価方法
出席及び受講姿勢　20%　　授業毎のレポート　30%　　年末レポート　20%　　期末試験　30%

| 教科書<br>参考文献等　授業内で提示する | 参考図書<br>「オーストラリアの歴史」M.クラーク(絶版につき図書館等で閲覧してください) |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

| | |
|---|---|
| 01 | 地域研究とは　オーストラリア研究 |
| 02 | 先住民アボリジニー（1） |
| 03 | イギリスのボタニー湾入植 |
| 04 | ニュージーランド事情 |
| 05 | オーストラリア大陸全土への入植 |
| 06 | 日豪関係史　ブルームの今昔 |
| 07 | ①ゴールドラッシュ　②ユーレカ砦事件 |
| 08 | ブッシュレンジャー　オージーフットボール |
| 09 | オーストラリア連邦結成の道程 |
| 10 | ①白豪主義　②オーストラリア連邦成立後 |
| 11 | ①第一次世界大戦とオーストラリア　②第二次世界大戦～カウラ事件 |
| 12 | ガリポリ戦を考える |
| 13 | 先住民アボリジニー（2）～アボリジニー政策の変化 |
| 14 | 「盗まれた世代」とは |
| 15 | ヘンリー・ローソン　オーストラリア文学 |
| 16 | 期末試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:地域研究Ⅲ | 担当者:生井 正人 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
日本は、西欧をお手本として近代化を果たし、諸国と戦火を交えた後、今、対抗と協調の中で比較的安定した関係を保っています。日本がこの様に関係してきた西欧の歴史と文化は、私達にとって一体どのような意味を持つのでしょうか。そして今後、国際社会において日本はどうあるべきでしょうか。この講座では、西欧史上の重要な出来事に焦点を絞り、その原因、経過、結果と影響を学ぶことにより、これらの問いへの解答を模索します。

授業の到達目標
受講者の皆さんは、ヨーロッパ史の知識を増やすとともに、国際的な視野を広げることができるでしょう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
予習として資料等（発表用）を調査し、参考文献を通読しておいてください（1～2時間程度）。 復習としてワークシート（提出用）を完成させてください（1時間程度）。 以上の他に、新聞、テレビなどでニュースをチェックするようにしてください（毎日30分程度）。

評価方法
授業への参加態度（ワークシートの提出等を含む）50%　定期試験50%

| 教科書<br>使用しません。 | 参考図書<br>授業中に指示します。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業では、絞られたテーマを深く掘り下げ全員で議論することにより、覚える歴史以上に考える歴史を目指したいと思います。皆さんの積極的な授業参加（個人またはグループでの調査・発表、意見交換）を希望します。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | イタリア（1）ローマの建国から衰亡まで イタリア（1）ローマの建国から衰亡まで イタリア（1）ローマの建国から衰亡まで イタリア（1）ローマの建国から衰亡まで |
| 03 | イタリア（2）キリスト教の成立と発展 |
| 04 | イタリア（3）ルネサンス |
| 05 | スペイン（1）大航海時代と植民活動 |
| 06 | スペイン（2）絶対主義 |
| 07 | イギリス（1）絶対主義から立憲王政の成立まで |
| 08 | イギリス（2）産業革命とその後の展開 |
| 09 | イギリス（3）19世紀後半の海外進出　-インドを中心に- |
| 10 | フランス（1）フランス革命からナポレオン時代へ |
| 11 | フランス（2）第二帝政から第三共和制へ |
| 12 | フランス（3）19世紀後半の海外進出　-中国・東南アジアを中心に- |
| 13 | ドイツ（1）宗教改革から宗教戦争へ |
| 14 | ドイツ（2）分裂からドイツ帝国による統一へ |
| 15 | ドイツ（3）ワイマール共和国と第三帝国 |
| 16 | 定期試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:地域研究Ⅳ | 担当者:近藤 有希子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
「アフリカ」に関する私たちのイメージは、極めて限定的な像にとどまってきました。そこには、アフリカと日本との地理的な遠さや、歴史的な関係の薄さなどが影響しています。本講義では、アフリカの多元的な社会や文化、人びとの生活や実践を知ることを通して、アフリカのもつゆたかな可能性や、グローバル化する世界におけるアフリカと日本とのつながりについてともに考えたいと思います。授業の後半では、アフリカに関する課題を各々が選択し、自主的に調べて発表してもらいます。

授業の到達目標
・アフリカに関する一面的な理解を拒否し、別の側面から捉える努力をすることができる。
・地理的に遠いアフリカと私たちの暮らしのつながりを認識することができる。
・アフリカの人びとの多彩な生きざまを知り、ときにその困難に対して応じることができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の後半は、自発的な学習を要するアクティブ・ラーニングになります。日頃からアフリカに関するニュースに関心をもち、新聞や書籍、インターネットなどから主体的に情報を収集しましょう。

評価方法
授業への参加度（受講態度・発言・リアクションペーパー）60%、課題設定と発表 20%、確認テスト 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配布します。 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中の議論や発表に積極的に参加しましょう。連絡先は初回の授業で伝えます。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション：「アフリカ」のイメージについて考える |
| 02 | アフリカのさまざまな生業と近代化 |
| 03 | アフリカの小農と私たちの生活①：植民地主義と一次産品への依存 |
| 04 | アフリカの小農と私たちの生活②：『おいしいコーヒーの真実』の一部視聴と議論 |
| 05 | アフリカの小農と私たちの生活③：フェアトレードというかかわり |
| 06 | アフリカの鉱物資源と私たちの生活：「紛争ダイヤモンド」問題 |
| 07 | アフリカの紛争とその特質①：『ホテル・ルワンダ』の一部視聴と議論 |
| 08 | アフリカの紛争とその特質②：ルワンダにおける「民族対立」の形成 |
| 09 | アフリカ紛争後社会を生きる①：移行期正義の諸相 |
| 10 | アフリカ紛争後社会を生きる②：軍事化する社会と若者たちの未来 |
| 11 | アフリカを調査する①（テーマ設定とスライドの作成方法） |
| 12 | アフリカを調査する②（情報収集） |
| 13 | アフリカを調査する③（情報収集） |
| 14 | アフリカを調査する④（スライド発表） |
| 15 | 確認テスト |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:地域研究Ⅴ | 担当者:布 和 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　この授業は保育学部ディプロマポリシーで求められる学びの課題の一部である「課題を発見・理解し解決しうる力（豊かな教養、専門的な知識・技能・思考力・判断力の育成）」の養成に関連している。授業は、広くアジアを視野にそれぞれの地域に分けて学習する。授業過程では、アジア全体の状況を紹介した上、関連する国々の歴史・文化・宗教などの事相を紙媒体資料並びに視聴覚資料を通して学ぶ。授業の形として、グループ学習やプレゼンテーションを取り入れるつもりである。

授業の到達目標
　15回の講義を通じて、アジアに関する基本的な知識を身につけ、それぞれの地域が直面する課題についての深い理解を持つことを期待したい。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　アジアの多様性や各国が直面する多くの課題を十分に理解するには予習と復習にそれぞれ2時間を使ってほしい。

評価方法
　欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション（30%）及びレポート（40%）を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教科書を使用しないが、授業ごとに資料を配布する予定。 | 授業中に指定する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業の進度は事情により多少の変更が生じる。教員の連絡先とオフィスアワーは授業中に知らせる。

| | |
|---|---|
| 01 | 講義紹介（アジアの現状） |
| 02 | アジアの歴史 |
| 03 | アジアの政治 |
| 04 | アジアの経済 |
| 05 | アジアの宗教 |
| 06 | アジアの文化 |
| 07 | アジアの課題 |
| 08 | 第一回目の学生によるプレゼンテーション |
| 09 | 東アジア |
| 10 | 東南アジア |
| 11 | 南アジア |
| 12 | 西アジア |
| 13 | 中央アジア |
| 14 | これからのアジア |
| 15 | 第二回目のプレゼンテーション |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:地域研究VI | 担当者:小林 純子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
【アメリカ】 アメリカ合衆国は民族的にも文化的にも多様な国で、複雑で様々な「顔」をもちます。このような多様性を形成してきた様々なルーツをもつ人々の歴史について学びながら、アメリカの地理、歴史、文化を学んでいきましょう。

授業の到達目標
①歴史を通してアメリカ合衆国の社会についての基礎的知識を学び、現代のアメリカ合衆国の在り方をより深く理解していきましょう。 ②他国を理解することを通し、自国や自らについてもクリティカル（批判的）に考える力を養いましょう。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各授業において、以下の通りの授業外学習活動が求められます。 準備学習（2時間）：事前に与えられたリーディング課題を読んでおくこと。 事後学習（2時間）：授業内で学んだ内容について復習し、情報を自分なりに整理し、考えておくこと。

評価方法
授業への積極的参加度 20% グループプレゼンテーション　30%　確認テスト 50%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを配布します。 | |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で取り上げるトピックについて、ただ受動的に受け止めるだけでなく、能動的に自分なりに考える姿勢を大切にしましょう。「自分はどう感じ、考えたか」に常に意識的になってください。

| | |
|---|---|
| 01 | イントロダクション |
| 02 | アメリカ先住民の歴史 |
| 03 | アフリカ系アメリカ人の歴史１-奴隷制 |
| 04 | アフリカ系アメリカ人の歴史２-公民権運動 |
| 05 | 「移民国家」アメリカと移民流入の歴史 |
| 06 | ユダヤ系アメリカ人の歴史と文化 |
| 07 | 日系アメリカ人の歴史１ |
| 08 | 日系アメリカ人の歴史２ |
| 09 | ドキュメンタリー映画From A Silk Cocoonが伝える日系アメリカ人の歴史 |
| 10 | ヒスパニック系アメリカ人 |
| 11 | ドキュメンタリー映画　And Then They Came for Ｕｓが訴えるもの |
| 12 | ドキュメンタリー映画　And Then They Came for Ｕｓ―写真と歴史 |
| 13 | グループプレゼンテーション準備 |
| 14 | グループプレゼンテーション |
| 15 | まとめと確認テスト |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:Teaching English for Children | 担当者:加藤 あや美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
This aim of this course focuses on the teaching of English to children between 5 and 12 years old. This course provides effective teaching methodology and various teaching materials that can be used when teaching English to EFL children.

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to
1) Understand what skills are required for teaching English to children
2) Plan lessons focused on selected themes, vocabulary items, grammatical structure

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring English/ Japanese dictionary to class. The course uses an active learning approach. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 20%  Writing Assignment 20%  Micro-teaching 20%  Teaching Materials 20%  Review Test 20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Maiko Tsuchiya (2015) Happy English for Childcare (金星堂) | Other course materials will be provided by the teacher |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour : Thursday lunch time)

| | |
|---|---|
| 01 | Course introduction |
| 02 | First and Second Language Acquisition |
| 03 | Methods and Approaches in Language Teaching |
| 04 | Teaching Listening & Speaking |
| 05 | Teaching Reading & Writing |
| 06 | Classroom Management |
| 07 | English Expressions Familiar to Children①  Classroom Commands |
| 08 | English Expressions Familiar to Children②  Daily Life of Children |
| 09 | Teaching Materials①  Games & Flashcards |
| 10 | Teaching Materials②  Songs & Picture Books |
| 11 | Individual Lesson Planning① |
| 12 | Group Lesson Planning② |
| 13 | Individual Micro-teaching① |
| 14 | Group Micro-teaching② |
| 15 | Review Test |
| 16 | None |

2020年度シラバス

| 科目名:Intermediate Communication in English Ⅰ | 担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi | 開講学科等 | 保育学部 国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan | Other course materials will be provided by the teacher |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

| | |
|---|---|
| 01 | Unit 1: Memories part 1: Listening & Speaking |
| 02 | Unit 1: Memories part 2: Skills Expansion |
| 03 | Unit 2: Life Changes part 1: Listening & Speaking |
| 04 | Unit 2: Life Changes part 2: Skills Expansion |
| 05 | Unit 3: Viewpoints part 1: Listening & Speaking |
| 06 | Unit 3: Viewpoints part 2: Skills Expansion |
| 07 | Review 1 |
| 08 | Unit 4: Problems part 1: Listening & Speaking |
| 09 | Unit 4: Problems part 2: Skills Expansion |
| 10 | Unit 5: Thinking Ahead part 1: Listening & Speaking |
| 11 | Unit 5: Thinking Ahead part 2: Skills Expansion |
| 12 | Unit 6: Imagine! part 1: Listening & Speaking |
| 13 | Unit 6: Imagine! part 2: Skills Expansion |
| 14 | Review 2 |
| 15 | Review of all units and progress check |
| 16 | No test |

2020年度シラバス

| 科目名:Intermediate Communication in EnglishⅡ | 担当者:Lauren Landsberry・Joseph Sichi・Indu Juneja | 開講学科等 | 保育学部 国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, to become more proficient speakers of English in everyday topics in preparation for your future jobs and time abroad.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 3, Macmillan | Other course materials will be provided by the teacher |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

| | |
|---|---|
| 01 | Unit 7: My World part 1: Listening & Speaking |
| 02 | Unit 7: My World part 2: Skills Expansion |
| 03 | Unit 8: Past Events part 1: Listening & Speaking |
| 04 | Unit 8: Past Events part 2: Skills Expansion |
| 05 | Unit 9: Feelings and Opinions part 1: Listening & Speaking |
| 06 | Unit 9: Feelings and Opinions part 2: Skills Expansion |
| 07 | Review 3 |
| 08 | Unit 10: What if…? part 1: Listening & Speaking |
| 09 | Unit 10: What if…? part 2: Skills Expansion |
| 10 | Unit 11: Work it out part 1: Listening & Speaking |
| 11 | Unit 11: Work it out part 2: Skills Expansion |
| 12 | Unit 12: Looking back part 1: Listening & Speaking |
| 13 | Unit 12: Looking back part 2: Skills Expansion |
| 14 | Review 4 |
| 15 | Review of all units and progress check |
| 16 | No test |

2020年度シラバス

| 科目名:教育実習Ⅰ | 担当者:田端 智美・布施 佐代子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:教育実習入門を履修済みであること | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
今までの学びや体験を活かして、課題を持ちながら幼児と関わる中で、幼稚園教育の実際を学ぶ。また、教師としての職業倫理などの理解を深め知識・技術・態度の実践的な履修を目指す。同様に、修得した理論を実践することを通して、教師としての専門性や資質を理解して保育観・教育観を培う。
主に観察実習を行い、後半に参加実習、指導実習を行う。

授業の到達目標
①幼稚園の役割や機能について実際に即して理解する。　②幼児の理解を深める　③幼稚園の教育・保育について体験的に学ぶ　④幼稚園教諭の職務内容について実際に即して学ぶ　⑤地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割について実際に即して学ぶ。また幼稚園と家庭・地域等との関係について学ぶ。　⑥幼小の連携について理解を深める　⑦幼児の教育・保育に関する自らの問題意識や課題意識を実際に即して検証し深める。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・実習の実施に先立って、教育実習入門で学んだことをよく確認すること
・事前訪問時に実習園から頂いた指導をよく確認して、実習の事前準備をすること

評価方法
実習園からの評価６０％・実習日誌２０％・事後レポート１０％・その他（実習の意欲・実習状況・巡回指導報告書など）１０％を総合して評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教育実習Ⅰハンドブック | 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・本実習を行うにあたり「教育実習指導Ⅰ」を履修すること　・実習中の遅刻早退欠席は事前にその旨を申し出、許可を取ること　合計実習時間数が80時間を満たない場合は、延長実習を行うこと
連絡先　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | Ⅰ.幼稚園における80時間(計10日間)の実習を通して観察・参加・指導実習(部分・全体)を体験する。<br>２.観察・参加を通しては、幼稚園での子どもの姿、幼稚園教諭の教育や園務の実際、家庭や地域との関係、施設・設備・環境構成等、幼稚園教育のあり方について、体験を通した理解を課題とする。<br>３.参加・指導実習(部分・全体)を通しては、子どもの発達の姿、教育の実際、幼稚園教諭の職務と実際、幼稚園の役割や機能、家庭や地域との関係等を踏まえ、子どもの援助・指導案の立案・教育実践の展開・実践の評価など、体験を通した実践的 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:教育実習指導Ⅰ | 担当者:田端 智美・布施 佐代子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限:教育実習入門を履修済みであること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
教育実習Ⅰのための事前事後指導としての本授業では、実習のあり方、指導案の作成、実習への心構えを学び、実習後の振り返り、自己課題を明らかにし、今後の課題に生かしていく。

授業の到達目標
①幼稚園教区実習の意義や目標を理解する。　②実習への心構えを学び、実践に必要な準備に自ら取り組む。　③観察実習・参加実習・責任実習の内容について理解し、準備・実践・振り返りに意欲的に取り組み。　④実習終了後、実習への取り組みを振り返り、自己課題を把握し、今後の学習や就職に生かしていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業内で詳細を提示
１年次の実習を踏まえて、本実習ではさらに何を学びたいのか自己課題を明確にもてるよう自ら進んで事前学習をすること。

評価方法
事前課題（ワークシート・指導案等）５０％、事後課題（事後課題発表等）５０％、授業への意欲１０％を総合的に評価する

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教育実習Ⅰハンドブック | 幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
公欠以外の理由で事後指導を欠席した学生は、実習を実施することができなくなります。授業を欠席する場合はその前後に必ず、教務課と授業担当教員に直接連絡をしてください。課題があります。連絡先tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 教育実習Ⅰの課題と事前事後指導の計画の理解 |
| 02 | 幼稚園における教育・保育の理解 |
| 03 | ３・４・５歳児の発達過程における理解 |
| 04 | 教育実習における指導案の書き方 |
| 05 | 指導案の作成と発表 |
| 06 | 事前訪問のための学内指導・実習直前指導（教師としての心構え） |
| 07 | 教育実習事後指導１（学びの振り返り） |
| 08 | 教育実習事後指導２（自己課題の明確化） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:総合演習Ａ | 担当者:髙橋　一郎・木村達志・加藤あや美・内田政一 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　本授業では、「基礎演習」の授業で学んだアカデミックスキルズの応用という位置付けで展開するものです。「基礎演習」で見つけた課題に対して調べ、まとめる力をさらに発展させ、自ら問題を発見し、その問題を調査・分析し、発信する力を養っていきます。少人数のクラス編成によるゼミナール形式で授業を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実践していきます。

授業の到達目標
①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポート作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）のさらなる向上を目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各授業において課題が示されるため、授業前に必ず準備をしてくるようにしましょう。また、毎回の授業において学習した内容は、復習をし自律的な学びにつなげるように意識してください。多くのグループワークを行うため、ゼミメンバーとは積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けましょう。詳細な活動に関しては、Moodle等で指示をします。

評価方法
課題提出の内容　50%　プレゼンテーション＆ディスカッション　30%　グループワークを含んだ授業参加度　20%

| 教科書<br>課題図書及び課題文献については授業内で指示する。 | 参考図書<br>授業内に適宜紹介する。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今後の学習の土台となる科目であるため、積極的に参加してください。また、PCを必ず持参すること。各ゼミ担当教員への連絡手段は授業内にてアナウンスします。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス |
| 02 | 先行研究の調査方法（先行研究と文献収集について） |
| 03 | 先行研究の調査方法（論文の精読とまとめ・分析について） |
| 04 | 先行研究の調査方法（ハンドアウトの作成につて） |
| 05 | 先行研究の調査方法（グループ内発表） |
| 06 | プレゼンテーションとディスカッション（研究手法と研究計画書の作成方法について） |
| 07 | プレゼンテーションとディスカッション（効果的なプレゼンテーションの方法について） |
| 08 | プレゼンテーションとディスカッション（研究テーマの設定・研究計画書の作成） |
| 09 | プレゼンテーションとディスカッション（研究計画書に基づく調査及び研究） |
| 10 | 創造し、実践する（人形劇・作成の基本） |
| 11 | 創造し、実践する（人形劇・作成と実践） |
| 12 | プレゼンテーション（ゼミ内発表） |
| 13 | プレゼンテーション（合同発表） |
| 14 | 学科講演会 |
| 15 | 前期の振り返り / 夏季休業中の課題説明 |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:総合演習Ｂ | 担当者:髙橋　一郎・木村達志・加藤あや美・内田政一 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 2 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　本授業では、「総合演習A」に引き続き、習得したアカデミックスキルズを応用する力を身につけていきます。自ら問題を発見し、その問題を調査・分析し、発信する力を養っていきます。少人数のクラス編成によるゼミナール形式で授業を行い、グループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れて実践していきます。

授業の到達目標
①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポート作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）を駆使してレポートやプレゼンテーションの作成に取り組むことを通して、自ら発信する力を向上させることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　各授業において課題が示されるため、授業前に必ず準備をしてくるようにしましょう。また、毎回の授業において学習した内容は、復習をし自律的な学びにつなげるように意識してください。多くのグループワークを行うため、ゼミメンバーとは積極的にコミュニケーションを図ることを心掛けましょう。詳細な活動に関しては、Moodle等で指示します。

評価方法
課題提出（研究計画書）の内容　40%　課題提出（まとめレポート）の内容　40%　グループワークを含んだ授業参加度　20%

| 教科書<br>課題図書及び課題文献については授業内で指示する。 | 参考図書<br>授業内に適宜紹介する。 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
今後の学習の土台となる科目であるため、積極的に参加してください。また、PCを必ず持参すること。各ゼミ担当教員への連絡手段は授業内にてアナウンスします。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス（前期の課題確認・後期の科目デザインとその達成について） |
| 02 | 課題プレゼンテーション（口頭発表と質疑応答） |
| 03 | 課題プレゼンテーション（口頭発表と質疑応答） |
| 04 | 論文作成方法（文章構成・章立て・研究倫理について） |
| 05 | 論文作成方法（研究手法（応用編）・多様な研究手法について） |
| 06 | 論文作成方法（個別テーマの設定と研究計画書の作成） |
| 07 | 論文作成方法（研究計画書に基づく調査と分析） |
| 08 | 学科講演会 |
| 09 | まとめレポート（先行研究のまとめ）<br>レポート作成） |
| 10 | まとめレポート（調査と分析） |
| 11 | 中間発表会 |
| 12 | まとめレポート（中間発表を踏まえたレポート修正と確認） |
| 13 | まとめレポート（分析の確認とまとめ） |
| 14 | レポート発表会（口頭発表と質疑応答） |
| 15 | レポート発表会（口頭発表と質疑応答を踏まえた振り返り） |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:保育原理 | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>【担当者の実務経験】保育所園長<br>この授業科目では、元乳児院・養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、保育とは何かを自分の体験を通して、及び学びを通して深めます。そして保育はどのようにして始まり、どのようにして現在に至っているか、歴史も振り返りながら学びます。また自分自身の保育観・こども観を振り返りながら保育観を深めます。具体的な子どものイメージが出来るように、実践例を出しながら進めます。 |
| 授業の到達目標<br>・保育の意義及び目的について理解する・保育に関する法令及び制度を理解する・子どもの最善の利益を学び、保育の現状と課題を学ぶ中で、保育とは何か、保育とはどうあるべきかを深める。・保育所保育指針等保育の基本について理解する・保育の思想と歴史的変遷・保育の現状と課題について理解する |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>・ボランティア経験や街の中の子どもの様子を観察してください。・自分で考える、考えたことを記録する習慣を身に着けてください.・主体的な参加と積極的な発言や質問を期待します。 |
| 評価方法<br>・授業参加・グループ討論参加態度３０％＋小課題レポート４０％＋最終レポート３０％ |

| 教科書<br>無し | 参考図書<br>・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>授業などで連絡する |

| | |
|---|---|
| 01 | 保育とは何かを考える・・保育の理念と概念について学ぶ |
| 02 | 子どもの権利条約と最善の利益と保育について学ぶ |
| 03 | 保育の社会的役割と責任について学ぶ |
| 04 | 子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令を学ぶ |
| 05 | 子ども・子育て支援制度、保育の実施体系、及び昨今の義務教育化や保育無償化について学ぶ |
| 06 | 保育所保育指針における保育の基本を学ぶ |
| 07 | 幼稚園教育要領を学ぶ・幼稚園と保育所の同時点と違いを学ぶ |
| 08 | 保育の目標と方法・内容・環境を学ぶ |
| 09 | 保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）と循環を学ぶ |
| 10 | 保育の思想と歴史Ⅰ（ルソー1）を学ぶ(エミール乳幼児期) |
| 11 | 保育の思想と歴史Ⅱ（ルソー２）を学ぶ(エミール児童期) |
| 12 | 保育の思想と歴史Ⅲ（倉橋惣三）を学ぶ |
| 13 | 保育の思想と歴史Ⅳ（戦後）を学ぶ |
| 14 | 保育の環境：再度保育とは何かを深める |
| 15 | まとめ |
| 16 | |

# 2020年度シラバス

| 科目名:教育原理 | 担当者:金子 晃之 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

授業概要と方法
　教育・学校の理念を理解する為、毎回、記入式のプリント、参考資料を配布し講義を行う。映像を用いて説明し映像を用いた事例検討を行う。また、受講者がグループ学習で意見交換した後、自分の考えたことを配布プリントに書き込みプレゼンテーションする作業を行う（全5回）。また小テストを行う（全2回）。

授業の到達目標
　この授業の目標は、①家族・社会を含めた教育・学校の歴史・思想・理論について知識を身に付けること、②近代の教育・学校の理念・目的・営みが、どのようなものとして出現し展開してきたのか、そこにおける課題は何かについて理解することにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料やプリントをあらかじめ配布する際は、次回までに与えられた課題について学習しておくこと。授業後は、配布資料や書き込んだプリントを読み直し、ポイントを振り返りながら、内容の理解を深めておくこと。

評価方法
　受講態度（20点）、授業時の小テスト（10点）、期末の筆記試験（70点）を合計して100点満点で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 毎回、資料とプリントを配布する。 | 「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「小学校学習指導要領」 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　オフィスアワー　火曜日昼休み　研究室

| | |
|---|---|
| 01 | 人間形成とアタッチメント |
| 02 | 明治期以前の家族・学校・社会と人間形成 |
| 03 | 明治期の家族・学校・社会と教育①　近代教育制度の歴史・理論 |
| 04 | 明治期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園・保育所の歴史・思想 |
| 05 | 大正期の家族・学校・社会と教育①　新教育運動と日本型学校文化の歴史・思想 |
| 06 | 大正期の家族・学校・社会と教育②　幼稚園の歴史・思想と教育家族 |
| 07 | 昭和期の家族・学校・社会と教育①　軍国主義下の教育の歴史・理論 |
| 08 | 昭和期の家族・学校・社会と教育②　戦後教育の歴史・理論 |
| 09 | 昭和期の家族・学校・社会と教育③　詰込み型教育の歴史・理論 |
| 10 | 昭和期の家族・学校・社会と教育④　ゆとり型教育への転換 |
| 11 | 平成期の家族・学校・社会と教育　　学力観の転換 |
| 12 | 欧米近代の家族・学校・社会と教育①　宗教改革と子ども観の転換 |
| 13 | 欧米近代の家族・学校・社会と教育②　家庭教育と学校教育の思想 |
| 14 | 欧米近代の家族・学校・社会と教育③　新教育運動の学校と思想 |
| 15 | 近代の学校と教育の特性と課題について |
| 16 | 学期末試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:子ども家庭福祉 | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、子どもの成長発達と生活を保障するために、家庭や保護者に対して子育て支援を目的として実施する種々の社会的な施策や援助を学ぶ。子ども家庭福祉の意義や歴史的背景を学ぶ。子ども家庭福祉での児童の権利を学ぶ。子ども家庭福祉の制度や実施体系を学ぶ。子ども家庭福祉の現状と課題を学ぶ。子ども家庭福祉の動向と展望を学ぶ。

授業の到達目標
子ども家庭福祉の意義や歴史的背景、子ども家庭福祉での児童の権利、子ども家庭福祉の制度や実施体系、子ども家庭福祉の現状と課題、子ども家庭福祉の動向と展望を理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教科書を読んで予習を行い、疑問点など質問できるようにしておく

評価方法
課題レポート40%・授業参加・集団討論参加態度３０%・最終レポート３０%

| 教科書<br>授業で紹介します | 参考図書<br>保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日頃から子どもに関するニュースに関心を持ち、新聞や他の報道に接すること。本も読むこと
オフィスアワー金曜日昼休み・メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 子ども家庭福祉の理念と歴史的展開 |
| 02 | 現代社会と児童家庭福祉 |
| 03 | 子ども家庭福祉の一分野としての保育 |
| 04 | 児童の人権擁護と児童家庭福祉 |
| 05 | 子ども家庭福祉の法律と行財政 |
| 06 | 子ども家庭福祉の実施期間・施設と専門職 |
| 07 | 少子化と子育て支援サービス |
| 08 | 母子保健と児童の健全育成 |
| 09 | 多様な保育ニーズへの対応 |
| 10 | 虐待防止、ドメスティック・バイオレンス |
| 11 | 社会的養護 |
| 12 | 障害のある児童への対応 |
| 13 | 非行への対応 |
| 14 | 子ども・子育て支援制度の仕組み |
| 15 | 保育と教育・療育・保険・医療などの連携とネットワーク |
| 16 | |

| 科目名:社会福祉 | 担当者:古畑 淳 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　わが国の社会福祉は近年、少子高齢社会の進展、家族形態の変容、都市化・過疎化など地域課題の発生、雇用や経済の格差が広がる中で、ますます重要性が増している。講義ではそのような社会福祉について、①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題の５つについて学習する。　授業は、担当者作成のレジュメに基づき進める。

授業の到達目標
　①社会福祉の意義と歴史的変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉サービスの利用の仕組みと利用者保護の仕組み、⑤社会福祉の動向と課題、について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　配布したレジュメ（学習資料）をよく読んで、知識の定着を図ること。　単元の終わりに、ポイント確認と称するプリントを配布する。問題形式でポイント確認を行うものである。受講者は次の授業までにこのプリントに取り組むことが求められる。

評価方法
　試験（85%）、授業態度（15%）で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 担当者作成のレジュメ・資料（各種統計資料、新聞記事、自治体広報記事等）を用いて授業を行う。 | 保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　社会福祉の現状を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。　質問等のある学生は、オフィスアワーの時間に訪ねてください。

| | |
|---|---|
| 01 | 最近の社会保障、社会福祉の話題 |
| 02 | 社会保障、社会福祉の理念と概念 |
| 03 | 憲法が保障する生存の権利について |
| 04 | 社会保障、社会福祉の歴史 |
| 05 | 社会福祉の理念の変化と社会福祉基礎構造改革 |
| 06 | 社会福祉の制度と法体系 |
| 07 | 社会福祉制度の実施体制 |
| 08 | 社会福祉の専門職と地域の協力者（民生委員制度） |
| 09 | 社会福祉の相談援助 |
| 10 | 社会福祉の提供主体（社会福祉法人制度を含む） |
| 11 | 社会福祉サービスの利用者と権利擁護 |
| 12 | 社会福祉の財政と利用者負担 |
| 13 | 生活保護制度の理解 |
| 14 | 高齢者福祉制度の理解 |
| 15 | 障害者福祉制度の理解 |
| 16 | 試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:保育者論 | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、卒業（就職）するまでに、「自分の理想の保育者像」を確かなものにし、その実現に向けて一歩づつ近づく方法を身に付けて、就職できるように学びたい。先人の保育や保育観を学びながら、常に、「自分ならどうするか」をイメージしながら授業が出来るようにしたい。15回の中で、1回はレポートの提出・発表を体験する機会を作ります。

授業の到達目標
・保育者の役割と倫理について学ぶ
・保育士の制度的な位置づけを学ぶ
・保育士の専門性について学ぶ
・保育者の連携・協働・資質向上・キャリア形成について学ぶ

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・常に「保育とは」「保育者とは」を意識しながら、実習やボランティア・子どもと接するときに考えてください。
・機会あるごとに子どもの様子を観察して記録に取る

評価方法
小レポート４０%・授業態度３０%・最終３０%

| 教科書<br>無し | 参考図書<br>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・全国保育士会倫理綱領ガイドブック・その他授業の中で紹介します |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業などで連絡する
オフィスアワ金曜日昼休み　メールアドレスa-harada@ohkagakuenn-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 保育者の役割と倫理について学ぶ・・保育とは何か・・保育者とはどうあるべきかを考える |
| 02 | 保育者の仕事と役割Ⅰ幼稚園教育要領・保育所保育指針での保育者の役割 |
| 03 | 保育者の仕事と役割Ⅱ子ども理解と保育者の役割 |
| 04 | 保育者の仕事と役割Ⅲ保護者理解と子育て支援での保育者の役割 |
| 05 | 保育士の制度的な位置づけを学ぶ |
| 06 | 保育者の連携・協働について学ぶ |
| 07 | 保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ・保育者としての倫理観を学ぶ |
| 08 | 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅠ野口由香・徳永恕 |
| 09 | 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅡ倉橋惣三 |
| 10 | 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅢ安部富士夫 |
| 11 | 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅣ斎藤公子 |
| 12 | 先人たちの保育観・保育者観を学ぶⅤ近藤薫樹・高田敏行 |
| 13 | 保育とは何か・・・遊びを楽しくする・遊びを発展させるとは |
| 14 | 保育とは何か・・・子どもの成長発達と保育者の役割 |
| 15 | 海外の保育について学ぶ　スウェーデン・ニュージーランド・デンマーク |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:発達心理学 | 担当者:布施 佐代子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>「人間は一生かけて発達していく」という生涯発達の視点に立ち、人生の基礎を築く「子ども時代」の中でも保育の対象となる乳児・幼児・児童の時期を中心に、保育との関連で子どもの心理発達の特徴としくみについて学ぶ。保育場面の映像や事例による学習の他、グループディスカッション等も随時取り入れて、より実践的に学びを深められるようにしていく。グローバルな視点から、多文化共生の中での子どもの発達と保育についても考えていく。 |
| 授業の到達目標<br>１．子どもの発達に関する基礎的な知識を確実に身につけている。２．さまざまな機能領域での発達を理解し、それを統合して「一人の人間」として「人や物とかかわりながら発達　していく子ども」の姿を具体的に思い描くことができる。３．生涯発達の視点から保育の重要性を理解し、子どもの発達と保育の関係について考えることができる。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>毎回の授業に際して、準備学修と事後学修をきちんと行うことにより、理解の徹底をめざしたい。準備学修として、教科書の該当部分や配布資料をあらかじめよく読み、与えられた課題についてポイントや意見をまとめておく。事後学修では、学修範囲のポイントを中心に学んだことを確認し、理解と考察を深める。　子どもと実際にかかわる機会を積極的に持つように心がけ、子どもとかかわりながらさらに子ども理解を深め豊かにしていくよう努めてください。 |
| 評価方法<br>定期試験　７0%、レポート・課題提出　20%、授業への参加態度（毎回のワークシートへの記入内容、グループディスカッションへの取り組み状況等）１0%から、総合的に評価します。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 「新・育ちあう乳幼児心理学　－保育実践とともに未来へ」<br>心理科学研究会編　有斐閣 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）フレーベル館 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>日本だけでなく外国の子どもにも実習等でかかわりますので、グローバルな視点から子どもの発達を的確にとらえ適切な対応を考える姿勢を大切にしましょう。オフィスアワーは月曜・金曜のお昼休みです。 |

| | |
|---|---|
| 01 | 保育と心理学（１）子どもの発達を理解する意義、発達理解と文化、保育実践とのかかわり |
| 02 | 保育と心理学（２）発達をとらえる基本的な視点と基礎理論 |
| 03 | 子どもの発達理解（１）0・1・2歳児の運動機能の発達と保育 |
| 04 | 子どもの発達理解（２）3・4・5歳児の運動機能の発達と保育 |
| 05 | 子どもの発達理解（３）0・1・2歳児の認知の発達と保育 |
| 06 | 子どもの発達理解（４）3・4・5歳児の認知の発達と保育 |
| 07 | 子どもの発達理解（５）0・1・2歳児の言葉の発達と保育 |
| 08 | 子どもの発達理解（６）3・4・5歳児の言葉の発達と保育 |
| 09 | 子どもの発達理解（７）0・1・2歳児の人とのかかわりの発達と保育 |
| 10 | 子どもの発達理解（８）3・4・5歳児の人とのかかわりの発達と保育 |
| 11 | 子どもの発達理解（９）0・1・2歳児の自我の発達と保育 |
| 12 | 子どもの発達理解（10）3・4・5歳児の自我の発達と保育 |
| 13 | 子どもの発達理解（11）児童期の発達と教育 |
| 14 | 生涯発達と初期経験の重要性（１）胎児期・新生児期との関連で乳幼児の発達を考える |
| 15 | 生涯発達と初期経験の重要性（２）青年期・成人期・老年期との関連で乳幼児の発達を考える |
| 16 | 定期試験 |

| 科目名:保育内容総論 | 担当者:伊藤 茂美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
３法の構造を理解し、子どもの発達を踏まえた保育内容を様々な角度から学ぶ。あわせて、園や家庭での教育及び地域おける子育て支援などについても理解する。さらに、少子化の進行、子どもの生活や遊びの変容による保育のニーズの高まりや今日的課題を考えた保育のあり方についても仲間と共に調査・発表・報告する。

授業の到達目標
・保育の意義についての明確な認識をする。そのうえで、子ども観、発達観、保育観を形成していく。
・保育ニーズに応えた保育内容のあり方を理解し、保育実践や展開の仕方を学ぶ。
・子どもの発達を踏まえた保育の内容を理解して保育の計画を構想し、評価の方法や保育の役割について理解する。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・授業計画を確認して授業に参加する。
・復習として、授業と関連する内容を調査し自己ノートを作成する。
・仲間と課題について調査した内容をまとめ報告書を作成する。

評価方法
授業への参加・学習態度・学びの振り返り２０％、課題の提出３０％、筆記試験５０％にて評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 津金美智子・新井美保子編　新時代の保育双書『子どもの主体性を育む保育内容総論』　（株）みらい | 幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・免許・資格を取る学生は、休まず履修する。
・連絡手段については、担当教員から伝える。]
・演習科目なので、グループや実践活動など現場理解を深める内容が多い事を意識して参加する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・授業の進め方・子育てを巡る動向と課題＜グループディスカッション＞ |
| 02 | 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容（我が国の保育構造・社会環境・園環境） |
| 03 | 幼児教育・保育の基本（環境を通して行う保育、育みたい資質・能力、１０の姿の理解等） |
| 04 | 遊びと保育内容（自発的な遊びと学び、保育内容と領域の関係）＜グループディスカッション＞ |
| 05 | 子ども理解①（乳児保育に関わる保育内容） |
| 06 | 子ども理解②（１歳以上３歳未満児の保育内容） |
| 07 | 子ども理解③（３歳以上児の保育内容） |
| 08 | 子ども理解④（家庭・地域・小学校との連携） |
| 09 | 子ども理解⑤（健康及び安全、子育て支援） |
| 10 | 保育の計画①（教育課程・全体的な計画とカリキュラムマネジメント） |
| 11 | 保育の計画②（指導計画と保育の展開） |
| 12 | 保育の計画③（具体的な姿から実践へ）＜グループディスカッション＞ |
| 13 | 我が国における保育内容の変遷（戦前・戦後、現代の課題） |
| 14 | 諸外国の保育内容（世界の幼児教育・保育の潮流、特色ある保育内容の調査）＜グループ調査＞ |
| 15 | 諸外国の保育内容＜グループ調査内容の発表＞　　★授業全体まとめ |
| 16 | 筆記試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:保育内容指導法（環境） | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】保育所園長
この授業科目では、元乳児院や養護施設での経験や保育所園長の経験を踏まえ、現代の子どもを取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、保育の構想、指導方法を学びます。環境との関わり、遊びの体験の中で子どもの認識や理解がどのように深まるかを学び、保育者がどのように指導をするのかを学びます

授業の到達目標
幼稚園教育要領・保育所保育指針等の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。特に乳幼児の認識についての学びを深め、環境に好奇心や探求心を持って主体的に関わり、それを生活に取り入れて関われるように、具体的な指導案を作成し、保育構想力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
子どもの遊びに興味を持ち、自分の経験や子どもとの関わりの中で遊びの楽しさを味わってほしい。遊びをもっと楽しくする工夫やアレンジ力を身に付けてほしい。子どもの遊ぶ様子を観察して、どんな遊びをどんなふうに楽しんでいるのか観察してほしい。草花や昆虫、栽培などにも興味を持ってほしい

評価方法
毎回のレポート40%　授業態度30%、確認テスト30%

| 教科書<br>幼稚園教育要領・保育所保育指針・ | 参考図書 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜日昼休み
メールアドレスa-harada@ohakagakuenn-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 乳幼児の保育・教育の基本と保育内容「環境」のねらい、内容について |
| 02 | 乳幼児の育つ環境について学ぶ |
| 03 | 乳児期の認識の発達について学ぶ |
| 04 | 幼児期の認識の発達について学ぶ |
| 05 | ごっこ遊びと子どもの発達 |
| 06 | 草花遊びと子どもの発達 |
| 07 | 構成遊びと子どもの発達 |
| 08 | 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室内活動） |
| 09 | 乳幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際（室外活動） |
| 10 | 標識・文字などに関わる保育の実際・教材研究 |
| 11 | 数量などに関わる保育の実際・指導案の作成と模擬授業 |
| 12 | 図形などに関わる保育の実際・情報機器の活用 |
| 13 | 早期教育について考える |
| 14 | 意欲・主体性・好奇心・探求心と保育の関わり・保育者の関わり |
| 15 | 幼児期の認識の発達と遊びの関わりのまとめ・確認テスト |
| 16 | |

| 科目名:保育内容指導法（言葉） | 担当者:吉見 昌弘 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
　本授業では、自主的・主体的に学び活動する力を目指し、保育内容の言葉に関する専門的知識と技能を修得します。言葉と児童文化財について、さらに言葉の発達を促すための教材として絵本等をどう活用すべきか学んでいきます。授業の方法は、授業の最初に絵本の読み聞かせを３名ほどが実演し、その後、教科書を読みビデオ視聴をした上で課題を解答します。座席は指定し、適宜、グループ・ワーク等のアクティブ・ラーニングの技法を用いて読み聞かせや絵本の制作を実施します。授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングを活用します。

授業の到達目標
１　言葉と児童文化財について発達を促す援助を理解できる
２　幼稚園教育要領、保育所保育指針では領域「言葉」をどのように捉えているか理解できる
３　言葉の発達を促す保育者の働きかけや絵本などとの関わりを理解し、実践できる

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修として事前に次に学ぶ教科書のページ及び参考資料を読むこと。加えて授業開始時に絵本の読み聞かせを担当する学生は事前に読み聞かせの練習を重ねて下さい（授業毎に１時間）。事後学修としては、絵本ノートを活用して図書館などで絵本のあらすじや内容をまとめて下さい（約30時間）。さらに、絵本の制作においては、各授業の進度に合わせてグループごとに制作活動を自主的に進め下さい（約15時間）。

評価方法
　受講態度や毎回の授業の課題等の提出物に加えて、予習復習の学修状況を60%、最後の確認テスト40%を目安として総合的に評価します。なお、授業回数の３分の２以上の出席者のみ評価対象とします。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 保育内容（言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社　※前期の「幼児と言葉」と同一の教科書を使用します | 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（水曜昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション（授業全体の流れ、授業の進め方やルールの説明） |
| 02 | 言葉と児童文化財　－教材の種類（絵本、ペープサート、パネルシアター） |
| 03 | 言葉と児童文化財　－教材の種類と実演 |
| 04 | 言葉と児童文化財　－絵本のもつ役割と選び方 |
| 05 | 言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせについて－ |
| 06 | 言葉を育むための保育者のかかわり　－絵本の読み聞かせの実演－ |
| 07 | 保育内容の領域「言葉」－幼稚園教育要領における領域「言葉」－ |
| 08 | 保育内容の領域「言葉」－保育所保育指針・教育・保育要領における領域「言葉」－ |
| 09 | 保育内容の領域「言葉」－領域「言葉」と教科「国語」との関係－ |
| 10 | 言葉と絵本　－世界で一つだけの手作り絵本－ |
| 11 | 言葉と絵本　－絵本の構造と特徴－ |
| 12 | 言葉と絵本　－絵コンテ作り－ |
| 13 | 言葉と絵本　－絵の制作－ |
| 14 | 言葉と絵本　－絵本の紹介と実演－ |
| 15 | まとめと確認テスト |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児と環境 | 担当者:原田 明美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>現代の乳幼児の育ちに影響を与えている環境について理解し、保育で保障すべき保育内容に関する知識を身に付ける。特に領域「環境」の指導の基盤となる現代の幼児をよりまく環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関りの発達などについて学ぶ |
| 授業の到達目標<br>幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する<br>幼児期の施行・科学的概念の発達を理解する<br>幼児期の標識・文字など、情報・施設との関りの発達を理解する |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>授業外において、様々な環境が幼児にどのような影響を与えるか、観察しながら、身近な環境に興味を持つように |
| 評価方法<br>課題レポート40%・授業への参加や集団討論への参加態度30%・最終レポート30% |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領 | 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・その他授業で紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー金曜日昼休み
メールアドレスa-harada@ohakagakuenn
-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領・その他授業で紹介する |
| 02 | 乳幼児期における発達における環境との関り |
| 03 | 乳幼児期・児童期の認知的発達 |
| 04 | 乳幼児の物理的、数量、図形との関り・教材研究 |
| 05 | 乳幼児の自然との関り①（遊び・飼育・栽培）・情報機器の活用 |
| 06 | 乳幼児の自然との関り②（自然体験活動 |
| 07 | 乳幼児期の標識・文字などの関り |
| 08 | まとめ |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:幼児と言葉 | 担当者:吉見 昌弘 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　本授業では、豊かな学びの共同体として、自主的、主体的に学び活動する力を養いつつ、次の学修内容を習得していく。幼児の言葉の発達について、発達段階を追いながら具体的な事例を踏まえて理解を深める。幼稚園教育要領における領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。言葉の発達を促す絵本や紙芝居などの児童文化財等の種類と使い方について理解していく。授業の方法は、授業中に適宜課題を提示した上で、アクティブ・ラーニングで意見交換や発表をする。なお、座席は指定し、授業の課題や資料はmoodleなどのeラーニングも活用する。

授業の到達目標
幼児の発達特性を踏まえ、幼児の言葉の発達を理解できる。
幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、援助ができる。
領域「言葉」と小学校の教科「国語」等とのつながりを理解し、適切な対応ができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として事前に次に学ぶ内容（参考資料等を含む）をよく調べて下さい（授業毎に１時間）。事後学修として授業で学んだ事柄に関連する新聞記事や著書などを主体的に調べて授業での学びをさらに深めて下さい（授業毎に２時間）。なお、授業の最後に初回の授業で指定した課題を授業外の学修成果として提出してもらいます（約15時間）。

評価方法
受講態度や毎回の授業の課題等の提出に加えて、予習復習の学修状況を40%、授業の初回に指定した課題を20%、最後のまとめにおける確認テスト40%として総合的に評価する。

教科書
保育内容（子どもと言葉）ワークブック　吉見昌弘、三恵社
　※後期の「保育内容指導法（言葉）」と同一の教科書を使用します。

参考図書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡、質問等があれば、授業毎に回収する課題（ミニレポート）に記入するかオフィスアワー（授業のある日のお昼休み）の時に来訪して下さい。連絡先は授業時に開示します。なお本授業では、指示しない限りスマホ、携帯電話の使用及び飲食を禁止します。

| | |
|---|---|
| 01 | 授業全体の流れの説明及び幼稚園教育要領について |
| 02 | 言葉とは何か |
| 03 | 言葉の働き |
| 04 | 幼児の言葉の言葉　－３歳児の事例を踏まえて－ |
| 05 | 幼児の言葉の発達　－４歳児の事例を踏まえて－ |
| 06 | 幼児の言葉の発達　－５歳児の事例を踏まえて－ |
| 07 | 言葉の発達を促す児童文化財 |
| 08 | まとめと確認テスト |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:幼児音楽Ａ | 担当者:石山 英明・古賀 弘之・加藤 希央 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
子どものための音楽活動に関する基礎技術として、ピアノ・幼児歌曲の弾き歌いの技能、及び音楽理論の基礎（楽典）を学ぶ。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、また、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル60番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、楽典の範囲は音階の理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において教員が個々の演奏を評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社） | 楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

| | |
|---|---|
| 01 | クラス分け／レッスン1 |
| 02 | レッスン 2／楽譜の意味、音名と階名、音符ドリル、ソルフェージュ |
| 03 | レッスン 3／音の幅、弾き歌い、音符の長さ |
| 04 | レッスン 4／リズムと拍子、音符ドリル、ソルフェージュ、小テスト |
| 05 | レッスン 5／音符ドリル、弾き歌い |
| 06 | レッスン 6／調号、さまざまな記号、弾き歌い |
| 07 | 実技試験／楽語、楽典の復習、ソルフェージュ |
| 08 | 実技試験の振り返り／楽典試験 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児音楽Ｂ | 担当者:石山 英明・古賀 弘之・加藤 希央 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
課題の習得により、円滑で音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。また、子どもの発達と音楽を中心とする表現活動を理解し保育・幼児教育を展開できるよう、そして、どうしたら学生自らの力で音楽・音楽表現及び指導力を高めていけるかの道筋を示し、様々な角度から音楽について学ぶ。授業は、クラスをグループに分け、個人レッスンとグループワークを行う。

授業の到達目標
幼児の表現及び音楽活動の援助を円滑に行うために、課題の習得による音楽的なピアノ演奏及び幼児歌曲の弾き歌いが出来るようにする。ピアノ演奏の初心者は、バイエル88番程度と、同程度までの楽曲、既修者は更に上のレベルを目指す。楽典とソルフェージュ、幼児歌曲の弾き歌いなども同時に学び、音階と音程の理解までとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎日、楽器に触れ、練習する習慣を身に付けましょう。また、日常の中から、音や音楽・表現に関する場面に関心を持つようにしましょう。

評価方法
ピアノ実技(50%)、実技担当教員の評価による平常点(20%)、楽典(30%)で評価する。平常点は、実技担当教員が、学習意欲、目標到達度、積極性を評価するものである。ピアノ実技は、発表会において複数の教員が個々の演奏を評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 標準バイエル教則本（全音楽譜出版社）、ピアノキャンバス（ドレミ楽譜出版社）、ピアノ実技と楽典（音楽之友社） | 楽譜のほか、音源なども参考にしましょう。幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説書。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
音楽に興味を持ち、楽しみながら練習することが上達の近道だと思います。
連絡はisiyama@ohkagakuenn-u.ac.jpまで。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス／レッスン1（レベルチェックと各自の課題提示） |
| 02 | レッスン 2／音程の種類、音程の判定方法、ソルフェージュ |
| 03 | レッスン 3／長短系音程、完全系音程、派生音を含む音程、音程ドリル |
| 04 | レッスン 4／音程のまとめ、弾き歌い、確認テスト<br>弾き歌い |
| 05 | レッスン 5／音階と調号、身体表現と音楽（導入） |
| 06 | レッスン６／写譜、身体表現と音楽（応用）<br>レッスン 6／音程（派生音）、ソルフェージュ |
| 07 | 実技試験／楽典（後期）の復習 |
| 08 | 実技試験の振り返り／楽典試験 |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:幼児造形Ａ | 担当者:田端 智美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。

保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を身につける
（1）保育実践に必要な表現力を身につける
保育実践に必要な造形の発想・構想の力・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力・保育実践に必要な造形表現の方法について伝える力
（2）保育実践に関する知識についての理解
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴・保育実践に必要な造形の用具の基本的・基礎的な扱いと安全性・保育実践に必要な造形活動の環境構成

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ・ポップアップカード等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、 | 3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（描画について） |
| 02 | 平面演習１（ドリッピング・バチックなど） |
| 03 | 平面演習２（マーブリング・染紙など） |
| 04 | 平面演習３（スタンピングなど） |
| 05 | 平面演習４　（紙版画） |
| 06 | ポップアップカードの制作１(とび出す仕組みについて) |
| 07 | ポップアップカードの制作２・提出 |
| 08 | 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児造形Ｂ | 担当者:田端 智美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:幼児造形Aを履修済みであること<br>幼児造形Aを履修済みであること | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
【担当者の実務経験】小学校非常勤講師
この授業科目では、元小学校非常勤講師（図画工作専科）の経験を踏まえ、幼稚園・保育園・小学校の連携を含めた指導・支援方法について具体的な検討を行う。また発達の過程を含めた支援計画・指導計画の活動について体験的に学ぶことができるようにする。
保育者（保育教諭を含む）を目指す学生が、幼児の造形表現と小学校低学年の図画工作等の学習活動を見通し、支援・指導を行う際に必要な知識及び技能、表現力について、教材研究を通して応用的に身に付けることを目的とする。授業の方法としてICTの活用や協同的学修を行う。

授業の到達目標
造形的な保育実践に必要な表現力と知識を応用的に身につける。
（1）保育実践に必要な応用的な表現力
保育実践に必要な造形の発想・構想の力を身に付ける・保育実践に必要な造形材料などの特徴を生かして表現する技術力を身に付ける・保育実践に必要な造形表現活動の過程から読み取る力を身に付ける・保育実践に必要な発展的な造形表現の方法について伝える力を身に付ける
（2）保育実践に関する知識
造形的な表現活動の意義と幼児の発達特徴について理解・身近な造形材料（自然材・人工材等）の特徴について理解・保育実践に必要な造形の用具

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業内で詳細を提示
準備学修：自ら素材集めをして授業に備えてください。
事後学修：演習した内容についてまとめを記入してください。
その他提出課題（ポートフォリオ等）があります。

評価方法
学修内容の学びや気づきを活動の記録として授業題材毎のポートフォリオとしてまとめたものを学びの過程として評価（40%）その他、造形指導に関する基本的・基礎的な知識・技能を評価とする（40%）。振り返り等（20%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領、 | 3.4.5歳児の造形活動おまかせガイド（明治図書） |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
保育者となったときのことのことを考え、日頃から手作りを楽しんでください。
連絡手段：tabata@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 幼児の発達の特徴と表現活動の意義について（工作について） |
| 02 | 立体演習１（空き箱を使った工作について） |
| 03 | 立体演習２（牛乳パックを使った工作について） |
| 04 | 立体演習３（紙皿・紙コップを使った工作について） |
| 05 | 立体演習４　（造形あそびについて） |
| 06 | 製作活動を通した模擬保育１(素材を組み合わせた表現について) |
| 07 | 製作活動を通した模擬保育２(粘土遊びについて) |
| 08 | 活動を振り返って（ICTを使った活動評価とまとめ） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

| 科目名:幼児体育Ａ | 担当者:寺田 恭子・木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
幼児の身体および運動能力の発育・発達について理解するとともに、幼児体育の意義やねらいを明らかにする。その上で、運動遊びの具体的な内容や指導方法について理解・修得し、保育者として実践力を身につける。本演習を通して、自らも運動遊びを楽しむことができるようにする。

授業の到達目標
■指導者として、基本的な声掛けや運動指導の方法を身につける
■幼児体操の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■新聞紙の楽しさを知るとともに指導法を身につける
■鬼遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■水遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■身体表現の楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。

評価方法
1.受講態度（50%） 2.B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱 | 授業の中で指示をする |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。

| | |
|---|---|
| 01 | 幼児体育の理念および授業計画について（寺田恭・木村） |
| 02 | 幼児体操、からだを動かす歌遊び（木村） |
| 03 | 新聞を使った遊び（木村） |
| 04 | 簡単なルールの鬼遊び（木村） |
| 05 | 仲間を助ける鬼遊び（木村） |
| 06 | 身体表現運動（様々な模倣からカラダを感じる）（寺田恭） |
| 07 | 運動会における身体表現（寺田恭） |
| 08 | 水遊び　水に慣れる(親しむ)運動遊び（寺田恭・木村） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:幼児体育Ｂ | 担当者:寺田 恭子・木村 達志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許･資格:幼稚園教諭1種免許状・保育士資格 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
体育Aから継続して、乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、体育の意義やねらい、内容・方法についての理解と習得をはかり、保育者として実践力を高める。各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、体育の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。 特に、各種の運動遊びの教材や展開方法について理解・認識を深めたうえで、「幼児体育」の教材づくりや指導方法について工夫し、それらを実践的・体験的に追求していくことができるようにする。

授業の到達目標
■運動遊びを指導する上で、安全管理に対する理解とその配慮ができる。
■サーキット遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■いすを使った運動遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■運動会の競技指導ができる
■縄跳びを使った遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■ボール遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける
■伝承遊びの楽しさを知るとともに指導法を身につける

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修として、シラバスに掲げてある運動遊びついて文献で調べておいて下さい。事後学修として、授業中に取ったメモを整理し、毎回の授業内容を提出用の授業ノートへ清書して下さい。伝承遊びである竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽などの見本を子どもの前で見せることが出来るようになって下さい。

評価方法
1.受講態度（30%） 2.B5サイズの大学ノートを用意し、授業内容をまとめ学期末に提出（50%） 3.基礎的技能の習得状況（20%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領及び解脱、保育所保育指針及び解脱、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解脱 | 授業の中で指示をする |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
隔週で開講する予定であり、詳細は初回授業で案内します。高校などで使用していたスポーツウエア、スポーツシューズ、体育館シューズを用意し、それらを着用して授業へ臨んで下さい。毎回の授業ではメモ用紙と筆記具を携行してください。運動禁忌の場合は、申し出て下さい。

| | |
|---|---|
| 01 | サーキット遊び　平均台、巧技台、跳び箱、マットなどの使い方を学ぶ（木村） |
| 02 | サーキット遊び　運動遊具を組み合わせた遊び方を考える（木村） |
| 03 | 椅子を使った遊び（木村） |
| 04 | 運動会の親子競技の指導（木村） |
| 05 | 縄を使った運動遊び（寺田恭） |
| 06 | ボール遊び（寺田恭） |
| 07 | 伝承遊び　用具を使わない遊び（寺田恭） |
| 08 | 伝承遊び　竹馬、けん玉、フラフープ、お手玉、ひも独楽（寺田恭） |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:多文化共生研究 | 担当者:髙橋　一郎 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
世の中、社会は様々な人々、文化、慣習、伝統などで成り立っています。そしてそうしたそれぞれの文化を背負った者が一緒になるとき、そこには文化摩擦、時には争いも生じます。受け入れられないことは争ってでも阻止するのか、あるいは共に生きていくため妥協・合意して折り合いをつけていくのかーーー私たちはそういった場面で決断を求められることもあります。国際教養こども学科1年前期の科目として、幅広い視野と社会に対する多角的な視点を国際・国内両方の事象から考えます。

授業の到達目標
この授業は【覚える】【暗記する】より【考える】授業です。それはこれからどう生きていくか、一人の人間として人生計画を組み立てて進んでいくか、などを多文化共生の観点から考えます。留学を控える学科として、海外で学びに行く意義付けと習得すべき者は何かを考えます。なお、下記授業計画の順番が替わる場合があります。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会に対する観察力を付ける人間に対するコミュニケーション力を付ける事象に対する分析力を付ける

評価方法
授業内の発言・発信30%　授業内レポート30%　期末考査40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領　(詳しくは授業第1回目に話します) | 図書館の教員指定図書(高橋)に目を通す。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワー　月曜ランチタイム

| | |
|---|---|
| 01 | ウサギとカメ |
| 02 | ステレオタイプ「A子はうざいよ」 |
| 03 | わっしょい、わっしょい |
| 04 | 黒い未亡人 |
| 05 | 猿回しとイルカショー |
| 06 | 過去・現在・未来 |
| 07 | トーキー |
| 08 | 太陽は味方か敵か？月は？ |
| 09 | クイズと発表 |
| 10 | 命 |
| 11 | 遊ばない保育!? |
| 12 | 日本 |
| 13 | 天災は忘れた頃やってくる |
| 14 | 国際結婚 |
| 15 | ケーススタディー |
| 16 | 定期試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:地域研究Ⅱ | 担当者:斎 孝則 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この科目は大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識」と「豊かな人間性」に直結する科目として位置づけられている。広く世界に目を向けるグローバル人材になることを目標として、日本の文化や歴史等に関する基本的な事柄を簡潔かつ丁寧に説明する練習を積みます。説明は日本語と英語両方で行ってもらいます。グループ学習やグループ発表を何度も行います。提出された課題には Moodle サイトを通してフィードバックを行います。

授業の到達目標
（1）「日本の文化や社会、歴史等に関する基本的な事柄」に広く興味を持って研究し、自分の考えをまとめられる。
（2）上記でまとめた自分の考えを、日本語で人が分かるように、明快かつ具体的に説明できるようになる。
（3）上記でまとめた自分の考えを、英語で人が分かるように、明快かつ具体的に説明できるようになる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で習ったことをヒントとして、授業外では日本の文化や歴史についてさらに研究を深めます。また、それを日本語と英語で簡潔にまとめます。さらにまとめたものを日本語と英語で発表する練習をします。２単位の科目なので１回の授業に対して４時間程度の予習、復習をして下さい。

評価方法
授業中の学修活動は主にグループ発表における発表の簡潔さ、丁寧さで評価します。また、文章に書いてもらい、文章の簡潔さ、丁寧さで評価します。授業外の学修活動は Moodle で提出されたまとめの簡潔さ、丁寧さで評価します。（評価の配分）小テスト30%、プレゼンテーション30%、リフレクション30%、コースリフレクションポートフォリオ10点

| 教科書<br>自作テキスト配布予定 | 参考図書 |
|---|---|

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料の提示やレポート等の提出を Moodle で行います。連絡先は授業で開示します。質問はオフィスアワーを活用して下さい。

| | |
|---|---|
| 01 | 年中行事（1）：お彼岸とは何か |
| 02 | 年中行事（2）：七草がゆは英語で何と言うか |
| 03 | 日本の宗教：カミさまの数／神社と寺院 |
| 04 | 祭と縁日：縁日には何をするか |
| 05 | 東京の名所／名古屋の名所 |
| 06 | 大阪の名所／京都の名所 |
| 07 | 日本の名所 |
| 08 | 日本の成立 |
| 09 | 天皇 |
| 10 | 大正時代 |
| 11 | 昭和の時代ー大東亜戦争ー |
| 12 | 平成の時代 |
| 13 | 代表的日本人（1） |
| 14 | 代表的日本人（2） |
| 15 | 代表的日本人（3） |
| 16 | なし |

2020年度シラバス

| 科目名:チームビルディング実践 | 担当者:寺田 恭子 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
　チームで働くことの意味や意義を理解し、協力してより良いものを創り上げていくための理論と実践について学ぶ。授業の前半では、個人的スキルや問題への取り組み方がチーム力アップの可能性に繋がることをあらゆる角度から理解し、後半では、実践を通してより優れたチームとしての取り組み方を身につける。

授業の到達目標
　学生は、他者の力と自分の力を融合させ、チームの課題や目標に向かって物事を構築していく、その方法と実践力を身につけることを目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　前もって与えられたテーマに対して発言できるよう準備をしてくることを準備学修とする。また授業で学んだ内容をフィードバックし、現在の自分に足りない力を客観的に把握すること、さらにその力の習得に必要な方法を、自ら考え実践することが事後学修に相当する。

評価方法
毎回のミニレポート（3点×15回＝45点満点）、実践研究のグループ発表（10点×3回＝30点）、試験25点満点の合計100点満点で評価する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 特になし。その都度プリントを配布。 | その都度提示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
チームビルディング用のファイルまたはノートを用意すること（A4サイズ）連絡を取りたい場合は寺田恭子研究室（管理棟2-4）まで。授業の前後でもOKです。

| | |
|---|---|
| 01 | チームビルディングとは何か |
| 02 | 様々な現場におけるチームでの働き方 |
| 03 | 自己の成長　他者の成長（自己分析・他己分析） |
| 04 | 自己期待と他者期待 |
| 05 | チームの課題達成のプロセスにおける重要ポイント |
| 06 | 立案・合意形成・役割分担 |
| 07 | リーダーシップとフォロワーシップ |
| 08 | 課題発見力と全体を俯瞰する力の育成 |
| 09 | 実践研究①　課題への取り組み　～私たちが目指したい保育者～行動指針マップ制作 |
| 10 | 実践研究②　発表・批評・フィードバック |
| 11 | 実践研究③　各グループテーマの設定・発展的取り組みの実際 |
| 12 | 実践研究④　発表・批評・フィードバック |
| 13 | 実践研究⑤　統一課題への取り組み　掘り下げ方と新たな可能性への取り組み |
| 14 | 実践研究⑥　発表・批評・フィードバック |
| 15 | チームビルディングのまとめ　個々におけるチームビルディング力の客観的評価と課題 |
| 16 | 試験 |

2020年度シラバス

| 科目名:Basic Communication in English I | 担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi | 開講学科等 | 保育学部 国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan | Other course materials will be provided by the teacher |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

| | |
|---|---|
| 01 | Course Introduction: Getting to know each other |
| 02 | Unit 1 - Lifestyles part 1: Listening & Speaking |
| 03 | Unit 1 - Lifestyles part 2: Skills Expansion |
| 04 | Unit 2 - Leisure part 1: Listening & Speaking |
| 05 | Unit 2 - Leisure part 2: Skills Expansion |
| 06 | Unit 3 - Getting Along part 1: Listening & Speaking |
| 07 | Unit 3 - Getting Along part 2: Skills Expansion |
| 08 | Unit 4 - Interests part 1: Listening & Speaking |
| 09 | Unit 4 - Interests part 2: Skills Expansion |
| 10 | Unit 5 - Telling a Story part 1: Listening & Speaking |
| 11 | Unit 5 - Telling a Story part 2: Skills Expansion |
| 12 | Unit 6 - Celebrations part 1: Listening & Speaking |
| 13 | Unit 6 - Celebrations part 2: Skills Expansion |
| 14 | Course Revision |
| 15 | Final Assessment |
| 16 | No test |

2020年度シラバス

| 科目名:Basic Communication in English II | 担当者:Indu Juneja・Lauren Landsberry・Joseph Sichi | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 演習 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 1 |
| | | 必須.選択 | 必須 |

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics.

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics and have the confidence to conduct successful ten-minute conversation in English with a helpful native speaker.

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks.

評価方法
Class participation: 15%　Homework and class preparation: 15%
Assessment #1: 20%　Assessment #2: 20%　Final assessment: 30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Miles Craven (2018) Breakthrough Plus 2nd Edition 2, Macmillan | Other course materials will be provided by the teacher |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Please come to class and try to speak English as much as possible. Do not be worried about mistakes, that is how we learn! Please spend time reviewing what you learn in class. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

| | |
|---|---|
| 01 | Course Introduction: Getting to know each other |
| 02 | Unit 7 - Food & Drink part 1: Listening & Speaking |
| 03 | Unit 7 - Food & Drink part 2: Skills Expansion |
| 04 | Unit 8 - Rules part 1: Listening & Speaking |
| 05 | Unit 8 - Rules part 2: Skills Expansion |
| 06 | Unit 9 - Adventures part 1: Listening & Speaking |
| 07 | Unit 9 - Adventures part 2: Skills Expansion |
| 08 | Unit 10 - Health part 1: Listening & Speaking |
| 09 | Unit 10 - Health part 2: Skills Expansion |
| 10 | Unit 11 - Comparisons part 1: Listening & Speaking |
| 11 | Unit 11 - Comparisons part 2: Skills Expansion |
| 12 | Unit 12 - The Modern World part 1: Listening & Speaking |
| 13 | Unit 12 - The Modern World part 2: Skills Expansion |
| 14 | Course Revision |
| 15 | Final Assessment |
| 16 | No test |

2020年度シラバス

| 科目名:教育実習入門 | 担当者:寺田 恭子・田端 智美・石山 英明 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許・資格:幼稚園教諭1種免許状 | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:なし | | 単位数 | 1 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>幼稚園の教育の実際を体験的に学修し、目標を達成する。 |
| 授業の到達目標<br>①幼稚園の役割や機能についての理解　②就園している子どもについての理解　③観察・参加・部分実習・指導実習を通して教育の実際についての理解　④教諭の職務内容についての理解　⑤家庭・地域との関係についての理解 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修<br>実習のための体調管理を十分に行うこと。絵本の読み聞かせ、手遊び等の事前準備をしておくこと。 |
| 評価方法<br>実習園からの評価60%、実習日誌20%　実習事後レポート10%、その他(実習への意欲・実習状況・実習巡回指導報告書など)10%を総合して評価する。 |

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教育実習入門手引き・ハンドブック | 幼稚園教育要領及び解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 |

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>教育実習入門手引き・ハンドブック |

| | |
|---|---|
| 01 | 1週間の教育実習入門実習を対象に、その事前、事後における指導を通して実習における学習課題の効果的な達成と、部分的とはいえ社会公共的な活動への参加にあたっての留意事項等の確認等を課題とする。<br>本実習を行うにあたり、原則、当該年度の「教育実習入門指導」を履修することが条件となる。<br>（未履修者は本実習に参加することはできない）<br>遅刻・早退・欠席等については、必ず申し出ること。　連絡手段　事務局実習担当 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:海外保育フィールド・スタディ | 担当者:髙橋　一郎・小野　克志 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須. 選択 | 必須 |

| |
|---|
| 授業概要と方法<br>海外の保育現場に実際に入り実習を行う。日本との違い、共通点など、様々な視点で異国における保育現場を観察する。ニュージーランド・ハミルトン市街の保育園を中心に実習を行う。 |
| 授業の到達目標<br>①日本の保育と外見上の違いのみならず、保育に対するコンセプトの違いも学ぶ。何がどう違うのか。どのような考えに基づいて保育が行われているのか、などを自分なりに発見する。②可能な範囲で英語でコミュニケーションを取るようにする。 |
| 授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修<br>授業内で指示します。 |
| 評価方法<br>①事前指導クラスの評価10%　②現地実習の評価80%　③事後研修10%　それぞれの出席及び活動を総合的に評価します。 |

| 教科書 | 参考図書<br>『保育の場で子どもの学びをアセスメントする―「学びの物語」アプローチの理論と実践』マーガレット・カー　2013年 |
|---|---|

| |
|---|
| その他(学生へのアドバイス、連絡手段)<br>オフィスアワー　月曜ランチタイム |

| | |
|---|---|
| 01 | ①事前指導授業で渡航地の文化、実状などを学ぶなどの事前学習を行う②現地実習現地で保育園に入り実習を行う。最後には子どもの前で出し物を出す③現地文化全員ホームステイで生活をする。保育のみでなくその国の文化を経験する④現地学習現地の高等教育機関(大学) を訪ね、講義を受ける⑤現地視察障がい児施設、先住民専用の園、など訪問し見聞を広げる⑥事後研修2週間の滞在を終えての反省会 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |

2020年度シラバス

| 科目名:海外幼児教育インターンシップ | 担当者:内田 政一・加藤 あや美 | 開講学科等 | 保育学部<br>国際教養こども学科 |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択 |

授業概要と方法
海外（主にニュージーランド）における保育・幼児教育の分野でのインターンシップを通して、国際的な視野を持った教育者・保育者としての素地を養います。また、現地での研修に参加することにより、実践的な英語を学びつつ、様々な人や文化と接触し、異文化理解を深める機会とします。授業は、事前指導と現地での語学研修・実習、及び事後指導で構成されています。渡航期間は2月下旬から3月中旬までの3週間程度の予定です。

授業の到達目標
研修先であるニュージーランドを中心とする海外の保育・幼児教育事情を知る。また、現地での研修により、異文化に直接触れ、異なる他者への理解を深める。加えて、日常的な英会話を身につけ、英語を使って現地のこどもや実習園のスタッフ、さらにはホストファミリーと簡単なコミュニケーションをすることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ニュージーランドで研修を行うことを踏まえ、その準備段階に当たる事前授業への出席は必須とします。また、事前授業では、コミュニケーションに特化した英語を学んでいきますが、授業以外においてもListening,・Speakingを中心とした英語の学習を怠らないようにしましょう。

評価方法
授業への参加度　30%　現地実習評価　40%　実習記録作成　30%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜、プリントを配布します。 | 授業中に紹介します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
海外への渡航を伴う科目であるため、事前に説明会を開催します。受講を希望する学生は、原則として説明会への参加が必須条件となるため、必ず参加するようにして下さい。（オフィスアワー：木曜昼休み）

| | |
|---|---|
| 01 | ＜事前授業＞<br>事前授業では、プログラム内容の詳細な説明や旅行業者による渡航に関わる提出書類等についての説明を丁寧に行っていきます。また、現地でのコミュニケーションに必要な実践的な英会話のトレーニングにも取り組みます。さらに、昨年度参加者によるプレゼンテーションの機会を設け、海外渡航への不安解消に繋げていく予定をしています。<br>＜現地研修＞<br>研修実習国はニュージーランドで、滞在先はホームステイを予定しています。また、参加費用は30～40万円後半までの設定となる見込みです。１週目は語学及び文化研修を主としたプログラムとなっており、2～3週目は現地のチャイルドケアセンターにてインターンシップに参加します。なお、研修中はジャーナルの作成を求めます。 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |